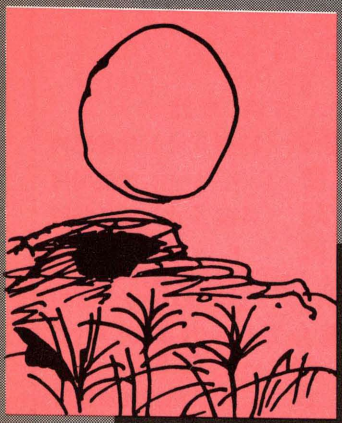
幼兒の教育

第五十一卷　第十號

日本幼稚園協會



10

紀

フレーベル館の保育用品

No. 41　幼児指導要錄
B５判、４頁、文部省御制定の制式のものです。　定価一部　５円

No. 43　指導要錄表紙
定　価　50 円

No. 45　保育日誌
大変御好評をいただきました保育日誌、諸先生方の御要望に応えルーズ・リーフ式にして御便利をはかりました。用紙インク止め完全、厚上質表紙を添えて50枚に付
定　価　200 円

No. 47　園籍簿
定価１枚　２円50錢

No. 48　身体検査票
B５判、文部省令第７号学校身体検査規程による制式のもの　定価１枚２円50錢

No. 49　父母への報告書
B５判　定価１枚　２円50錢

No. 50　園のたより
A６判24頁　定　価　15 円

No. 51　同カバー　定価15円

No. 53　卒園臺帳
B５判　定価１枚　２円50錢

No. 55　保育料袋
定価１枚　２円50錢

No. 56　保育證書（A）
No. 57　保育證書（B）
AはB４判、BはB５判
定価A 10 円　B７円

No. 58　園兒募集ポスター（A）
No. 59　同　（B）
AB２種あります。大きさは約１尺５寸×２尺幼稚園、保育所共用
定価　A B　各　15 円

No. 72　出席簿（縦型）
定　価　１枚　2円50錢

No. 101　出席カード
A５判13枚（表紙共）　定　価　30 円

No. 102　出席カード用カバー
定　価　15 円

No. 103　出席カード用貼紙
10人分12ヶ月一箱　定価　200 円

No. 111　ぬりえ　（初級）
No. 112　同　（上級）
B５判各16枚　定価各 35 円

No. 116　えとぬりえ（No. 1）
No. 117　同　（No. 2）
B５判各16枚　定価　各 35 円

No. 118　おさいく帳
B５判　12枚　定価 30 円

No. 126　自由画帖（A）
No. 127　同　（B）
定価 A 35 円　B 28 円

No. 131　折紙（特製５寸）定価55円
No. 132　同（〃４寸）定価40円
No. 133　同（並製５寸）定価40円
No. 134　同（〃４寸）定価30円
以上いずれも１色100枚包の値段です。色の種類は12色。（並製は11色）

No. 156　まんてんくれよん（10色）
定　価　50 円

No. 157　同　（８色）定価40円

No. 158　お道具箱　定価60円

No. 160　鋏　（先丸鋏）　定価35円

No. 168　たのしいおしごと
お茶の水の及川先生の新らしい企画になる工作の本です。　B５判16頁定価45円

No. 74　園のたより用ゴム印
定価１組　12ヶ　200 円

上記用品の御用命は本社、並に御県を管轄する本社代理店に御申し付け下さいませ。

發行所　東京都千代田区神田神保町二丁目四番地　株式会社　フレーベル館　振替口座東京一九六四〇番

幼 兒 の 教 育

第五十一卷　　第十號

昭和二十七年十月

目　次

表　紙……中川紀元

秋の賦……倉橋惣三…(2)

(ヌース)育てる者の喜びと淋しさ……山下俊郎…(4)

私の幼兒教育研究の宿題(2)……三木安正…(6)

どんな幼稚園がよい幼稚園でしようか(下)……小川正通…(12)

アメリカの幼兒教育視察報告……安間公観…(47)

名古屋市・愛知県の保育界……浅野寿美子…(16)

☆青いヴエール☆……松村康平・倉橋惣三…(20)

十月の保育……堀合文子・鈴木とく…(22)

アメリカ童話から(19)……松原至大…(34)

楽しい幼稚園の給食……鹿野京子…(40)

アメリカ通信(2)……津守真…(44)

会から……(52)

編集主幹　倉橋惣三

協力委員　牛島義友　及川ふみ　斎藤文雄

多田鉄雄　波多野完治　山下俊郎

編集委員　西山浪太郎　(五十音順)

発行

日本幼稚園協會

秋の賦

―幼児教育者の二つの型に就て―

倉橋惣三

春よし、秋よし、いずれをよしというべくもない。またその人によつて好むところあるもおのづからである。撰び定むべくもない。しかも、今や季秋に入る。秋を感ずること繁く、秋をうたうこと多きも亦、おのづからとして許さるべきか。

春が浅いというではないが、秋の味は深みにある。春の月は朧に包む。秋の月は天心に澄む。春の山は霞む。秋の山は聳える。野の花にしても、桜草は普く紅氈を展べ、竜膽は碧落の一片を叢深く潜ましむ。庭の花にしても、ヒヤシンスは甘き香をあたりに漂わせ、菊は馥郁として鼻をついて薫ずる。挙げ来れば限りなく、いずれをすぐれたりともいえないが、春の人、秋の人、おのづから親しむところを異にする。

春のひろやかさに対して、深く凝るところあるは秋である。これを軟といゝ硬といゝ、また、寛といゝ厳といつては簡単に過ぎる。たゞ、春のどこまでものびやかなのに対して秋はひきしまりを感ぜしめずにいない。但し、与うる人の意識の上のことではない。春の人、秋の人、共にその自然であるが、強いていえば、春の人はひたすら楽しませ、秋の人はひそかに訓ゆるところありといえようか。勿論、その楽しませるうちに訓えがあり、訓えの中に楽しませることを欠かないが、受く者の方に別はあるであろう。

これらは、保育者の性格に出づるが、年齢の差も関係せずにいない。若さは春で春型に傾き、老は秋で秋型に傾くのを免れない。それも亦人生の季の自然である。たゞ、闌春の温風が幼き心を緩弛溶和に誘いすぎ、晩秋の霜気が幼き心を緊張凍結せしめるに至つては、季の異変に属するが、熟せざる稚心への影響については、かげながら忘れてはなるまい。たゞ、一般に貫ばれる保育の春性に対して、同時に秋性の貫さも必要なことは、今が秋だから、そう思われるだけとはいえまい。若し仮りに約言するとして、保育の方法は楽しき春型を主とするとして、保育者その人の自ら内に持すべきは、常

に一味の秋型すなわち深みというべきか。内に深みを蔵する人でなくては、たゞ親しむのみ、敬するところはあり得まい。——その深みといつても、深刻とか、深邃とか、深沈とかいうものでないことは素よりで、必ず、晴やかな明るさの中にあるもの、柔かな温かさを底に籠めるものでなくては、真に幼児教育者の秋型として快くもなく慕われもしないそれは秋十月の今の季節の快適と魅力とが、現にわれらに教えるところである。春の日の燃える陽炎の如き揺曳する温かさとは異つた温さが、秋清爽の涼気の底に籠つているのである。春の陽光は浴せしむべく、秋の日和は仰がしむべきか。秋型の保育者をたゞ冷い人と評してはならぬ。却つてその温さを性格の深い底にもつ人である。

幼児の今の幸福のためには、春型の人でありたい。幼児の将来に残る感化のためには、秋型の人こそ印銘するところが多いであろう。先生の笑がおは嬉しい。しかも、ふと先生の横顔に見る真面目も、おごそかさも、或は時に、悲しみも亦、それこそ幼児の心に長く思い出されるものかも知れない。日頃は自分と同じように笑い興じて遊びの相手に溶けていて下さる先生が、或る日、その美しい眉をひそめて、浮かぬ顔をしていられる。それが、子供達の遊びには、秋の雲の影のようなものを、はびこらせないとも限らないが先生は、『あのね、菊子さんは、きのう病院にいらしつたのよ。先生はけさお見舞いして来ました。先生は菊子さんがかわいそうで、きようは、いつものように遊べないのを、許して下さいね』といわれる。

又時に、朝早く幼稚園へ来ると先生が一人でお祈りをしていらつしやる。子供も、いつものように、すぐには飛びつかないで、そのお祈りの終るまで、静かにしている。その朝の先生の白い横顔に、いつもの真向きの顔とは別のものを見る。それからまた、次郎さんが、隣の組の小さい子をいじめた、足の悪い子をからかつた。そのとき、先生が次郎さんをお叱りになつて、後庭の方へ連れてゆかれた。先生の顔には弱い子、不具の子のための憤りがきつと表われ、次郎さんをひつぱつてゆかれた先生の手はわな〳〵とふるえていた。後に残つた幼児達はシンとして声もない。やがて先生は次郎ちやんを連れてお部屋に帰つていらしつたが、まだしやくり上げている次郎ちやんを抱くようにしていらしつた先生の顔は、いつものやさしさに戻つていた。後庭で、先生は何を次郎ちやんに言われたか誰れも知らないが、そこの大木の暗い蔭は、子供の想像にも厳粛な光景として描かれる。そんなことが、次郎へ、そうして組の子へ、どういう貴い記憶を残すであろうか、——先生は、次郎へ厳格であつたのではない、自分自身の厳粛性が、後庭で次郎ちやんを抱きしめて、涙が流れずにはいられなかつたのである。春型も秋型もわざとしたつくりごとで出来るものではない。い〻悪いではなくて、その人なのだ。

育てる者の喜びと淋しさ

山下俊郎

○

いままでに、わたくしは二つの幼稚園の園長と一つの保育園の園長を数年つとめたことがある。卒業式のことを話題にするには少しはや過ぎるようであるが、卒業式の度にわたくしが強く感じたことがある。卒業する子ども達は、まことにうれしそうで、やがて入学する小学校の生活としての楽しい夢に胸をふくらませている。そしていよいよお帰りというときには、いともいそいそとして、「センセイ、さよなら」「エンチョセンセイ、さよなら」といつてはねながら帰つて行く。しかし、あとに残される先生たちは泣きの涙である。「○○ちやん、学校のお兄さんになつてもまた幼稚園に遊びにいらつしやいね」と、子ども達の頭をなで、しつかりと抱きしめて、「さよなら」をいつたあと、どの先生も眼を泣きはらしてまつかにしている。そしてそれをながめているお母さん方も眼をうるましている。卒業式というものは、先生にとつてうれしいものであると同時に悲しいものである。「○○ちやん、おめでとう」といいながら眼をうるませている。育てられるものは、どんどん育つて、やがて育てる者の懐をはなれて行く。よくもこれまで育つてくれた！という喜びは、やがて自らあとに残される淋しさなのである。

「子ども達に自立の心を」ということは、この二十年来、わたくしがおよそ子どもの教育に関することについて発言し、書く場合に、いつでも唱えて来たことである。

しかし、自立が子どもの身について行くにつれて、それだけ余計に子どもの身体も心も育てる者のそばを離れて行く。

○

ひとを愛するということは、そのひとを奪うことだといつた人がある。子どもを育てるということは、その子どもをやがては自分の手のとどかない所へと離してやることだといつてもいいであろう。

子どもには、子どもとしての生活がある。子どもはどこまでもその子どもとしての道を歩かなければならない。これが子どもの自立である。

○

青年期の子どもを持つた母親から、よくわたくし達は子どもが友達と遊ぶことにばかり夢中になつていて、さつぱり家にいない、小さいうちはよく「お母さん！お母さん！」といつて自分のそばばかりにいて、ついこの間までわたしをよくいたわつてくれたのにといつて訟えられることがある。いつまでも母親にばかりまつわりついている子どもは、順調な成長をしているとはいえない。精神的離乳がおくれているからである。だから、わたくしは、子どもが自分のことをさつぱり問題にしてくれないとなげくお母さんには、それが人間としての順調な成長の道なのですと話している。

○

成長というのは、いままでの幼ない殻をぬけ出して、新しい世界へと進んで行くことである。保護していてくれた殻は、保護されている間は誠に有難いものである。しかしこれからぬけ出して行く時には、そしてぬけ出してしまつてからは、邪魔であり、有難くないものである。

そしてその有難さは、心の奥には残つても、それはやがて思い出される有難さであつて、現実の生活ではまことにうるさいものになつてくる。

育てる者は、育てられる者から見れば、この殻のようなものである。それは、育てる者の宿命である。

○

幼児保育者もまた必然的に育てる者の楽しさと淋しさとを味うべき宿命を持つている。ひとりひとりの幼児を心をこめてみつめ、それぞれの幼児の成長に心をくだく保育者で、その育ての心が強く暖かであればあるほど、楽しみは大きい。そしてまたやがてその子が自らの道を一歩ふみ出すときにはそれだけに淋しい。

しかし、大きい心を持つた保育者のほんとの喜びは、自分の懐からとび出して行くものの後姿に、この上ない頼もしさを感じる所に在る。育ち行く姿こそ、育てるものにとつての無上の喜びである。

○

育てた者が、巣立つて行くことを思うとき、誰でもが感じるうれしさと淋しさ、それはやはり育てる者の宿命であろう。そしてそれを大きい喜びに包み得る者が、ほんとの育ての心を持つたものといい得るのであろう。

私の幼児教育研究の宿題 (2)

三木安正

(2) 農村の保育所

精神発達の遅れた子どもたちの幼稚園をやつてゐるうちに、片方の足では農村の保育問題にだんだんと深入りしていつた。そのきつかけは、私の奉職していた恩賜財団愛育会では愛育村という指定村をもつていて、育児、保健の指導をしていたので、時々、そのお手伝いに愛育村に出掛けたり、また農繁期保育所の速成保母養成の講習会の講師などをたのまれて地方巡りをしているうちに、農村の子供の知能検査などもたのまれ、その結果が都会の子供のそれに比していちぢるしく悪いことについて、一体それが何に由来するのかということをつきとめてみたい気持になつた。それで神奈川県の高部屋村で農繁期保育所の保育指導を土地の女学生や東京からつれていつた女子専門学校の生徒をつかつてやつたりした勢をかつて、高部屋村に出来た社会保健館の建物の一部を活用して、常設保育所を作ることをはじめた。使用を許された部屋は三間に四間ぐらいの板敷の集会室で、東京の愛育研究所から優秀な保母さんを一人常駐してもらい、全村の学令前一年の幼児全部を対象にしようという建前から、三部制の保育という新形態を案出した。というのは全村を三つの地域に分け、各冬期に三分の一づつ（つまり一回は一ヶ月弱）順番に保育するというわけである。従つてある一人の子供は四月と九月と一月に保育所にくるというわけである。三日目ごとにくるという形も考えられるのであるが、それでは農家の方で繁雑だという声があつたのでやめたわけである。

実をいえば、全村の子供を二群に分けて、一方は保育所に子供をこさせ、一方は全然来させないで、一年後に、その両者を比較するという方法をとれば一番よいのであるが、これは、保育所の必要性を大いに説き、全村の人に保育所をもりたててもらいたいという念願があつたので、そうしなかつた。

この農村保育の研究は、一方において、その経営を愛育研究所の実験的保

育から村当局の仕事にうつすとい工う作をしながら進め、保育の効果も相当に見られて、昭和十七年ごろには秩父宮妃殿下がごらんになりにいらしたりしたこともあつたが、その反面、こんな仕事に一生懸命になるのは「赤」だろうというような疑いをかけられて特高警察に引つぱられるなどのことがあり、これも貴重な研究資料を放置したまゝ研究の方は尻切れトンボになつてしまつた。（その資料の一部は拙著「幼児の心理と教育」に使つてある。）

さて、農村保育の研究で得られた経験としては、

第一に、保育所設置以前に就学期において知能検査をした結果は、その指数の平均は九〇前後であつたが（都会のインテリの多く住む地区の公立幼稚園では知能指数の平均は一一〇ぐらいになる）保育所が出来てから各学期毎に検査をしてみると、次第に上昇して平均一〇〇近くになつた。

すなわち、農村の子供の知能検査の結果の低いのは、素質として頭が悪いのではなく、文化的環境にめぐまれないこと、ことに離乳期ごろに子どもの身体発育がぐつと悪くなり、死亡率も高いことなどとも考え合せて、乳幼児期の育児の方法がわるいことによるのであろうということが主張できるように思えたのである。

第二に、農村の子供は純朴であるというようなことを一口にいうが、むろん、それを全面的に否定するものではないが、実は、なかなか、こすいところもあり、人のいうことをきかぬところもあるということを感じたのであるが、これは、やはり、農家の切りつめられた生活のあらわれであり、生活水準の低さということから起因することであるが、子供を子供らしくあつかつてやる余裕がなく、なにかといえば叱りとばすようなやり方から、大人とか他人とかを信用し得なくなつたことである。つまり 大人や他人に対して警戒心や猜疑心をもつているわけである。

これに対して保育所にくるようになつて正しい主張は容れられ、約束したことは守られるという経験をしたことは、少し大げさにいえば、彼等にとつては『おどろき』であつたであろう。

それ故に、子供たちは次第に警戒の衣をぬいでいつたように見られたのである。このことは、知能的な問題にも増して、重要なことであると思う。狭い土地しかもたず、封建的気風のきわめて強い、生活水準の低い農村の家庭で育てられる子供たちのパーソナリティーが如何なるものに形成されて行くかということは、日本の将来ということとも関連してよく考えてみなければならない問題である。

第三には、農村保育所の経営を通じて得られた、一般の幼稚園や保育所のあり方とでもいつた問題である。

子供が生長して六才になると小学校にあがる。そうすると勉強は学校での仕事になるといつたことが、一般には何の不思議もなくうけとられており、

出来れば、それ以前に幼稚園の教育を受けさせたいということが、近来の風潮であるかの如く見られているが、いうまでもなく、小学校も幼稚園も、われわれの先輩が考え出した教育のための組織である。六才を就学の時期にするということも先輩の諸氏がきめたことで、その当時の、もろもろの状勢によつたわけである。しかも、日本の教育制度は、先進諸外国からの輸入であり、そのようなものが「お上」から下されたわけであるから、そうした制度が、一般の大衆の要求や必要から出たものとはいえないし、また要求や必要を満たすために非常に心をくばつたものでもなかつたのである。

農村の幼児をとりまく教育的環境を考えてみれば、保健衛生に対する無関心、文化的施設や資材の不足、子供の人格の尊重といつた観念の不足等がすぐとりあげられるが、その根本に横わつているのは生活水準の低さや、封建的社会構造などであつて、これらを切り離しては、それぞれの改善ということは行い得ないものなのである。

そこで、教育の仕事がそうした改善の仕事を目標としている以上、どういう形をとつたならば、最も効果的であるかということが考えられなくてはならない。こうした考えから、農村の保育所を農村の生活文化の指導センターと考えるならば、そこにはいろいろの利点があり、それに応じて保育所経営の工夫が進められて行く。

農村の子供の生活文化水準を向上するためには農村生活の改善からはじめなければならないが、幼児は繁忙な農家では足手まといとなつている反面、親の気持として、学校にあがる前の子供に対しては、何といつてもいろいろと心を使うものなので、その子供をこちらであづかつてやつて親の手をはぶいてやると共に、心がかりになつている子供をしつかりにぎつていて、親に教育的な仂きかけをすることは、きわめて効果が大きいわけである。母の会の出席率でも、保育所の出席率が一番高く、小学校も高学年に行くに従つて悪くなるのは、やはり、子供に対する心ずかいの程度を示しているのであろう

そこで、こうした心ずかいの一層高いものにし、高められた心ずかいを技術的に具体化して行くことが、前記のような教育方針から必要になつてくることで、母の会の指導はきわめて重要な意義をもつことになる。農村の場合には、保健、栄養、衣服その他の一ばん身近かな問題から、次第に教育の問題をとりあげて行くとともに、嫁姑の問題や女子青年の教養の問題にもふれて行く必要がある場合もあろう。

私共は、当時の国民学校高等科の女生徒や女子青年会の娘さんたちに保育の指導を行つたが、普通は興味をもたないで過してしまう家事育児のような勉強も、はじめから子供の世話をし、子供の心の理解が少し出来るようになると、次第に興味をもつてくるのであつて、高等程度の学校にすゝむものの

少ない農村などでは、現在でいえば中学校の時代に実習のある家庭科教育をよくやつておくことが有効であろう。

終戦後、農村の人手不足がほとんど解消したために、農繁期保育所も大体姿を消してしまつたようであるが、農村の民主化のために、また幼児の生活の向上のためには、農家の協同的経営による保育所が改めて考えられたらよいと思うのである。

(3) 都会の幼稚園

農村保育所の経営から、幼稚園というものは、家庭教育と学校教育との中間にあるという点からも、また先ほど述べた育児文化の指導センターとなるべきだという点からも（育児・教育に関する考え方では都会の親には都会の親としての、たたき直されなければならぬ観念がある。たとえば、利己主義的な教育観、虚栄的な教育観）幼稚園の理想的な形は、地域社会の基盤に立つものということが考えられ、進んでは父兄の経営する幼稚園というものが考えられたが、終戦後、私は文部省の教育研修所（現在　国立教育研究所）の一員となり、所長城戸幡太郎先生の下で、このような幼稚園を作ることになつた。

教育研修所の所在する品川区上大崎の長者丸という土地は、その名の如く、豊有の人達の住宅地であるが、大都会としては非常にめずらしいことに、長者丸青年懇話会という青年会があつて、その会員は大てい男女の大学生であるが、それがレコードコンサートとかダンスパーティーとか講演会とか運動会とか、いろいろな催しをやつたりして、可なりよくまとまつていたのである。

私どもはこの青年会の連中と提けいして、幼稚園の設立運動をはじめた。

話し合いの結果、教育研修所は幼児教育の研究をするため保母を一人嘱託し、空いている部屋を三室提供する。

園児の定員は三十人前後であるが、保母さんは一人ではだめだから、あと一人は父兄会の負担とする。というわけで、父兄、青年を交えての数回の話し合いで、地域の大きな支持のもとに発足した。（昭和二十二年）青年会の連中の奉仕によつて、砂場やブランコもしつらえられた。ところは国立の施設の中であつたが、きわめて民主的な形の幼稚園が出来たのである。

ところが、私はまもなく文部省に転勤となり、（その後も研修所業務で、しばしば研修所にもいつていたが）さらに病気のため長期間休養を余儀なくされ、この研究もまた尻切れトンボとなつてしまつた。

その幼稚園は、その後研究面では梅津八三氏、瀬川良夫氏の指導のもとに発足したが、経営面では、国立教育研究所附属幼稚園、すなわち国立幼稚園となり、さらに制度上の問題から、東京学芸大学附属として移管されそうになつたとき、地元のこの幼稚園を作つた人たちが立ちあがつて、ついに私立

白金幼稚園が設立されるにいたつた。

その園舎が落成したのは昨秋のことで、いよいよこれからが一人立ちで歩むことになるが、私自身としては、国立幼稚園から私立幼稚園となつたことは、まことに慶賀にたえないところである。つまり、それは、親たちが本当に幼稚園教育の必要性を認め自分たちの力で幼稚園を作ろうというところまで高まつたことは、まことに、すばらしいことだと感ずるからである。

この幼稚園の設立以来の研究テーマの中心は幼児教育におけるパーソナリティーの形成であつた。そして、それをいわゆる社会性、社会適応性という面から見るのであり、その線にそうて幼稚園教育におけるカリキュラムの構成ということが問題となつている。

私もまた今後研究メンバーの一人となつて幼児教育研究の仲間入りをしたいと思つているところである。

幼児教育研究の面白さは、やはりパーソナリティーの形成過程が比較的顕著にみられるということであろう。

すなわち、パーソナリティーに関して主要な問題となるのは、対人関係あるいわ人間関係における面であり、ある子供が、他人との関係において、あるいはその属する社会とか集団において、どんな様相をあらわすかということが、考究されるわけであるが、丁度幼稚園の時期というものは、家庭といういわばたての序列をもち、保護された集団から一歩ふみ出して、横に竝ぶものの間でいわば席取り競争をするような事態におかれるわけで、そこでは、いままではかくされていたような面がおもてにあらわれてくるのであり、さらに相互に影響されて発展して行くのである。

そうした関係における個人の様態をパーソナリティーとみる立場からは、この時期における子供たちの行動の発展変容はきわめて興味があるとともにパーソナリティーの形成に関しては基本的な時期と考えられるわけでる。あこうしたもののあらわれは『遊び』において、あるいは『喧嘩』において、または絵画とか製作とかの表現活動において、つかんでいくことが出来ようし、いろいろの経験がどのように受けいれられて、外界の事象をどのように説明するかといつたことにもあらわれてこよう。

ことに面白い問題は、社会的適応のうまく行かない子供たちである。物をいうことがうまくできなかつたり、友達の仲間に入れなかつたり、逆に人と協調が出来ず乱暴を仂いたり、いろいろと先生に世話をやかせる子供たちこそ、研究の対象としては尊重すべきもので、そういつた不適応行動がどんな条件から発生してきているかということの源泉をたずねて行くことは、まことに興味深いし、みのり多い科学的知見を与えてくれるのである。

しかも、これらのことは、ただ興味があるといつてよろこんでいる問題ではなく、もし社会的に不適応な子供が

注目され、その原因がつきとみられて行くならば、それを社会的に適応して行けるように善導して行くにはこの頃の時期が最も都合がよいのであつた。そういうことの指導が出来るような保育というものがおそらく保育の真髄であり、そうした指導原理に立つ保育案は、すべての幼児に対して、有効適切な保育をして行くものとなるはずであると思う。と同時にその指導原理は両親教育の指導原理をも導き出してくれるであろう。

たとえば、神経質の子供というのはどういう条件のもとから発生してくるかということを個々の事例について研究して行けば、それらのものに共通した問題が発見されるのであろうが、そうした条件は現在の世の中には、だんだん強く現われてくるようになつた生活条件であるのかもしれない。もしそういうことであれば、教育はその傾向を阻止して、健全な精神を養うような環境をしつらえて行かなければならない。ところが、そうした教育的知見や信念を欠いて、神経質的傾向をもつ親たちの意向にのみ迎合して行くような教育をやつて行けば、幼稚園の教育は子供の精神的健康をそこねるようなものになつてしまう。そうした種類の幼稚園が増していつているのではないかと心配に思われることもないではない

さきほどのべたように、幼稚園の時期というものは、パーソナリティーの形成に大きな意味をもつ時期であり、かつよきパーソナリティーの形成のための条件は、子供たちの精神的健康が保たれていることだというように重点的に考えてみると、幼稚園の教育では精神衛生ということがきわめて重要な問題となつてくる。そして、いうまでもなく子供の精神衛生に関しては、その家庭が非常に強い影響力をもつているわけである。この意味において幼稚園が母子の指導のセンターになるということは、都会の幼稚園なら都会の幼稚園なりに大切なこととなつてくるのである。

このような機能を果し得るような幼稚園の経営保育の指導ということは、私の今後の宿題になるだろう。

むすび

尻切れトンボになる癖に、いろいろと大きな風呂敷をひろげてしまつた。はじめから虫干とことわつてあるからゆるしてもらえると思う。

虫干というものは、めつたに着ない着物を早く処分してしまえばよいのに、出してみるとついおしくて手離す気にもなれず、かといつて、倉の中にしまつてばかりおいては虫がついて使いものにならなくなつてしまうので、面倒でも年に一、二回は出して風を通すこととなるのであるが、私の宿題も、こうした着物みたいなもので、すてるにすてられないので、時には虫干しをする必要があるのであろう。

あまり色があせてしまわないうちに何とかものにしたいと思う。

どんな幼稚園が良い幼稚園でしようか

良い幼稚園での所見（下）

小川正通

小学校への基礎を築くこと

言語

子供が良い話し言葉（語い）をもつていると、読むことを学び易い。そして彼は言葉と実物及び経験を同一化することによつて、語いを構成していく。一体、刺激のない環境は、殆んど或は全く好奇心を起させないであろう。直接、間接の多くの経験によつて、幼児の創作的表現が可能になるのである。即ちこれらの経験に由来し発達してくる語いは、―言葉と言葉が重なり、句と句が重なり固い概念の基礎を形成する。

そしてこの基礎を欠く場合には、読方における成功は殆んど望み得ない。良い幼稚園は、子供の後の学校生活の各重要部面となるレディネスに寄与することができる。

文庫に備えている面白い多くの絵本は、お話についての興味をそそつている。しかも幼児向の良い絵本は、絵図を通して子供が話の筋を理解し得るように工夫されているのである。

また幼児が絵の下にある印刷文字によつて、話の筋が語られていることを知ると、次第にそのシンボルを読みたいとの興味をいだくようになる。かくてさし絵の連続は前から後へと読んでいかれるものであることを教える。園児は間もなく大好きなお話がのつている絵本を好むようになり、また本を大切に取り扱うようになる。

嘗ては、幼稚園において習字が教えられた。しかし四、五才児の発達と筋肉の仂きとについての知識が明らかになつて以来、習字に必要なこまかな筋肉調整は、幼児にとつて希望すべきどころか、有害でさえあると考えられるに至つた。たとい幼児が緊張しても、紙上に複雑なシンボルを書くこと自体が無理なことである。良い幼稚園では多くの肉体的活動と大筋肉使用とを誘う活動及びその設備を用意している。そしてこまかな筋肉調整のためには、手技、製作の項で述べた種々の材料による経験が与えられる。

子供によつては、幼稚園で自分の名前を書くことのレディネスを示すであろう。しかしそれは書くことが決して要求されたのでなくて、幼児自身のイニシアティーブでなされなければならない。子供に対して、習字として手本を書いてやることは、一年生で初めてなされることである。大抵の学校では、一年生で印刷体を用いるのであるが、学校によつては筆記体を用いている。

著者の知るところによると、大文字のみ教える教師はいないようである。しかるに熱心な父母や祖父母が家庭で子供に教える

場合に、学校でもそうしているのだらうと考えて、麗大文字で名前を書くことを教える。家庭と学校間の連絡を密にして、かような矛盾をさけなければならない。家庭では一つのモデル、幼稚園では別のモデルそして恐らく一年生では、また別のモデルから学ぶようであつては、子供の経験を混乱させるだけである。首尾一貫していて、初めて学校へスムーズに適応することが可能であろう。

正しく発音発声された言葉を聞き、また教師が話すように言葉を話すことによつて子供は言葉と文字のひびきを理解するようになる。

子供も自己の欲望と感情とを話し言葉を通して人に知らせる。しかし語いも豊富でないし、書くことそのことができないのであるから、情緒的反応（泣く、笑う、すねる等）と行為とで表現する場合が多いのである。

園児はお話をしたり、ニュースや自分が参加した事件を報告する経験をもつことが必要である。しかし子供によつては、質問に対し極めて短い返答しかしない。

（例）教師の問「あなたは何処へ行きましたか」幼児の答「公園」

教師の問「あなたは何をしましたか」幼児の答「ぶらんこで遊んだ」

教師の問「それからあなたはどうしましたか」幼児の答「家へ帰つた」

彼が成熟し、自己の経験を話す機会にめぐまれると教師の助けを借りずに、短い連続的なお話ができるようになる。また従来の断片的な文章は完全な文章となり、話がその中心題目からはずれるようなことがなくなつていく。そのためにお話の本の絵の連続が、非常に役に立つ。一般に、子供がお話をしたり、報告したりすることに関しての発展能力やスピードは、各園児によつて差異があるものである。

言語表現のもう一つの面は、人或はグループの面前で、話をなし得る能力であつてそれをはばむ恐怖心やはずかしさは、次第に克服される。そして種々の経験をもつこと、それについて話すこと、教師が読んだり話したりすることを聞くこと、観察したり、言葉と事物とを同一化すること等を通して、子供の語いが築かれていく。

一人が語り、一人或はそれ以上の人が聞くことによつて、言語的交渉は成立する。

他人が話しているときに、注意深く聞くことは、上手に話すことと同様に重要なことである。しかし園児に対しては、一時に長い時間聞くよう期待することはできない。それは彼の興味の持続時間が短いからである。彼は話すことと同じく聞くことを好む。したがつて、両者のバランスを考慮するがいい。

社会科

幼稚園でのすべての経験は結局、社会科に貢献する。即ち家庭経験、見学、展示、お話、絵、分配の経験及び地域社会からの訪問客等をドラマ化することによつて、幼児の家庭、学校及び地域社会に対する関心が一層高まつていく。彼はその身辺の生活を観察し、理解することから出発するものである。

民族、宗教或は父親の職業がなんであろうとも、彼のクラスの男女児全体に共通する或る要求があることを、彼は学ぶであろう。すべて人は、家庭（それがテントであろうが、大邸宅であろうが）、衣服（それが絹であろうが綿布であろうが）及び食糧

(それが豆であろうが上等のヒレ肉であろうが)を必要とすることにはかわりがない。家庭における家族の全成員の役割が強調される。また幼児達は、郵便配達夫、消防夫、警官、八百屋、給油所の係員等を友達として、親しさをおぼえるようになるし労働者がなくては立派な道路ができないことを理解するようになる。さらにもし作物を収穫したり、トラック運転をする人の労働がないとするならば、市場に果物も野菜もないことを知るに至るであろう。

小学校の上級でやるような仕事の単元はもちろん幼稚園には不適当である。むしろそれは幼児の「興味の中心」の短いものでなければならない。

しかもそれはクラス中の少数を興味付ける範囲のものであつて差支ない。例えば一人の幼児が農場へ行つたことを話し、或はクラス全体が農場を訪問したとする。すると幼児は、農場の動物について語る。誰かが農場を造りたいという。しかしそれは興味のあるものだけでいいのであつて、決して、クラスの全幼児に対し、その「興味の中心」に活動すべきことを要求するものではない。幼児の注意の持続時間は、短いのであるから、如何なる「興味の中心」も、二時間から二週間程度のものであろう。そしてかような「興味の中心」が、一つ以上保育室の中で同時に進行することを決してさまたげるものではないのである。

社会的な態度及び社会から受入れられるような行為が意識的発展するように導くことが幼稚園における社会科の主要な任務である。したがつて幼稚園では、グループの間の関係の改善に力が注がれる。というのは子供は本来、生得的なひがみをもつていないけれども、年長児や大人との交渉を通して、ひがみをもつに至るからである。

数概念

多くの算数概念が、形式的でなく導入せらるべきである。数経験の中に含まれるものは、計算、大小の比較、円・三角・立方体・正方形等の形の区別、少い・多い・多量・若干・少量の如き部分概念を学ぶこと空間関係の理解、遠い・近い・高い・低い・中・下・上、時計の見方、カレンダーの見方、週と月、軽重の識別、次のようなお金の価値が分るようになること等である。即ち一セント・五セント・十セント・二十五セント・ドル。

自然科学

四、五才児は、案外、自己の身辺の観察が鋭いものである。そして彼は屢々「如何にして」、「どうして」の質問を試みる。幼稚園こそ、その好奇心や興味を促進する優れた機会を提供することができる。即ち自然の中を歩くこと、簡単な実験、自然の展示、動物の飼育、花壇の世話、経験の発表等を通して、幼児は自分の環境についての大きい知識を収得する。また彼等は季節の循環、鳥の巣をつくる習性、風の進行路、雪のレースのような結晶美、雲の絵図等についても学ぶ。さらに暖かい太陽を感じ、雨のパラパラ降る音を聞き、ピンク色のさんごにさわり、さなぎから現れ出る蝶を見守り、スミレの良い香をかぐ。しかもこれらの経験は、仲間や興味を同じくする子供にも分配せられるので、一層意味があるのである。

肉体的要求の項で述べた健康的習慣の発達を通して、彼自身の肉体の構造と機能についての簡単な知識を収得する。そして注意深く選ばれた活動とデイスカッションと

は、知識の増大のために役に立つ。

社会的情緒的要求に応ずること

人とうまく折合つていけないならば、どんな社会グループにおいても、その良い成員となることができまい。社会生活とは、民主主義の原理に基ずいて考え且つ生きることを学ぶことである。またわれわれすべては、仕事の生活、家庭生活、及びリクリエーションにおいて直面する情況に対し、社会的に認められた態度で反応し得るようにならなければならない。

良い幼稚園では、個人として又グループとして、仕事をすることを身につける。「会話の時間」に協力作業と諸活動とのためのプランが立てられる。また家庭で玩具や持物をグループの間に分けた経験をもたない子供達は、幼稚園で物品の交換について学ぶ。さらに物品使用の順位が規則によつて定められる。最初は規則が教師によつて作られるが、子供が成熟し、規則の必要な理由を理解し得るようになると、規則作成の御手伝もできるようになつてくる。

級友や大人に対して、ていねいであることを学ぶこと、他人をいためつけぬよう注意する事、グループの状況によつて自分を統制すること――これらすべては、幼稚園における幼児の社会的発達の重要な部分をなすものである。子供の指導力とイニシアティーブとが奨励され、また自分のアイデイアを通して仕事をしていくよう導かれる。当面した問題のための活動を選択し、自分の計画に従つて、ものごとを運営する機会が沢山与えられ、選択が要求されるときには、いつでも可能な限り自分で選択できるようでなければならない。

また失敗と緊張との連続は、園児の望ましい発達に有害である。クラス中に適当な環境を用意することによつて、恐怖、緊張及び情緒的な爆発を消失させる機会が与えられる。さらに魅力的な（刺激過剰ではないが）保育室、理解ある教師、幼児のグループ中の親愛と幸福のふんいき等は、学校が惹き起した緊張をば減少させるものである。音楽に自由に反応するリズム活動、子供が創作した歌、内面的思想を表現した製作、家庭及びお話の経験のドラマ化等は、いずれも緊張解放に役立つことができる。

安定感は問題解決による諸経験を通して達成される。

入園早々の幼児は、玩具を落し、こわしどうすることもできないで泣くかもしれない。しかし次第に教師の指導のもとに、幼児はその断片を拾いあげ、修繕の方法について考えることを学び始める。さらに玩具が破損しないよう教師と子供の間で、相談がなされるようになる。もともと安定感と安心感とは緊密に関連している。もし子供が家庭でも学校でも安心感をもち得るならば、彼は自信をもつて、自己の活動に従事する自由を感じる。逆に、もし彼がほんとうの或は虚偽の恐怖で悩まされている場合には、どうして思考及び活動の良い習慣が養われ得るであろうか。

長く激しいかんしゃくの形でひどく情緒的不適応を示す子供、常に爪を噛んだり、どもつたり、絶えずグループから脱落する子供、また極端に攻撃的な子供等は、特殊研究の題目となる。もちろん幼稚園においては、幼児が安心して生活できるようあらゆる方策がとられなければならない。しかし幼児の極端に激しい表出は、その生活に影響する望ましくない条件或は状況の徴候と考うべきである。次のような調査が必要とされる。

（43頁へ）

名古屋市・愛知県の保育界

浅野壽美子

倉橋先生から、名古屋市と愛知県との保育界の今昔について何か書くようにとのお手紙がありましたが、私にはこのようなことを書くだけの経験も地位もございませんので、一度はおこわりしようかとも思いましたが、先生のいつもながらの日本の幼児を思う深いお心づかいのにじみ出ているお言葉には、おことわりすることもできず、私のような拙ない経験の者でも日本の幼児のためにお役に立つことがあればと思い、ここに名古屋市の保育界を主として愛知県の保育界の今昔について書いてみることとしました。

私がまだ二十才代の教師としては本当にたよりない時代から、孫の二人も出来たこのお婆さん先生になるまで、十年一昔といえば三昔にもなる間、名古屋市にしても愛知県にしても随分いろいろなことがありました。まず私が初めて幼稚園の先生として奉職して、十六年の間勉強させていたゞいた愛知県女子師範学校附属幼稚園（現在愛知学芸大学附属幼稚園）時代で一番忘れることのできなかつたことは、たしか昭和七年であつたかと思いますが、県の保育会に県費補助を申請したことであります。なかなからちが明かないのに総会の期日はようしやなく迫つてくるし、校長からは何をしているかと大目玉はいたゞくしとうとう困りはて、郡部に住んでいる収入役の家へ夜おそく車でかけつけて長い時間待つて実情を訴へ、さらにあちらこちらにかけ廻つたりしてようやく県費補助として金五千円也を初めていたゞきようやく総会が開けたということがありました。

当時、名古屋市では坪内きく先生、石田（現沼波）先生、木村りん先生、市川たま先生、加藤しよう先生等が御熱心に幼児教育の向上のために努力しておられました。名古屋市で第五回全国保育大会が開かれたのはこの頃でありまして、この頃の名古屋市保育界はなかなか盛んなものでありました。

昭和十六年六月私が名古屋市立第三幼稚園に園長として赴任しました頃は、加藤カツ先生、大島せき先生、大河内林次郎先生　国府谷しづ先生、小池長先生等が名古屋市の幼稚園教育のため大いに気焔をあげ、保育会の実も非常にあげておられました。

この頃は、全国一様に引きしまつたというよりも押しつけられる様な空気がみなぎつており、私どもは幼い子どもの心を傷けないようにとたえず力を合せて懸命に努力してきましたが　今から考えますとこの保育会の人々の気持は本当に必死でした。

昭和十九年を迎えるとすぐ、〃東京都の幼稚園は休園になつたとか、保育所にきりかえられたとか〃といやなニュースが入つてき、間もなく名古屋市でも附設保育所として続けていくような状態となつてしまいました。

たまたま、教育界も上は大学から下は幼稚

園まで結集して大日本教育会が結成されましたので、名古屋市の保育会も同年十月十日第二十七回の総会を最後に、連絡会を残して発展的解消をすることに決めました。その時の会員の気持は、実に感慨無量というか何というか言葉には尽くせないものがありました。

人でしたら二十七才という仂き盛りでこれからという時の解散ですから、皆何か出鼻を挫かれたようなわびしい思いで、今でも忘れられないものの一つとなつております。

その後の一年間は、相次いで閉園してゆくものやむざんにも焼失してゆくものやで保育界は国の運命とともにどうなることか全くわからない状態でありまして関係者同志の連絡も全くつかなくなつてしまいました。

昭和二十年八月十五日。記念すべき終戦の日を迎えましたときは、名古屋市立幼稚園の園長として残つておりましたのは、当時の第二幼稚園長加藤カツ先生と私の二人だけでありました。その上二人とも園舎は焼かれ先生や小使は皆それぞれ職を辞して一人も居ず、手のつけようもありませんでした。しかし、目の前の子ども達は、敗戦後の騒乱の中にようしやなく放り出され、生活に多忙な大人達からは少しもかえりみられませんでしたので実にみじめな様子でした。そこで私は　この子ども達を一日も早く幸福にしてやるためにはまず幼稚園を開園することである。このためには今日からどんな苦心もしのぼうと考え、幼稚園を一日も早く開園するために毎日ほんそうしました。しかし、名古屋市は殆んど焦土と化し教育施設も殆んど戦災を受けて烏有に帰してしまい義務教育の学校の再開ですらまだ手についていないときでありましたので義務教育でない幼稚園なぞは到底問題にされませんでした。が、力丸学務課長（現在名古屋市女子短期大学長）と坂井視学（現在名古屋市教育委員会調査弘報課長）との一方ならぬ御援助と御理解によつてようやく再開することだけはでき、先ず二十一年一月焼失をまぬかれた第一幼稚園が開園し（加藤カツ先生が園長事務取扱として）次いで二月十一日第三幼稚園が中村区広井国民学校（現在新明小学校）の教室を借りて開園しました。これとともに、私立の幼稚園もぽつぽつ焼け残つたところから再開してきましたので、旭幼稚園の国府谷先生と相談して、名古屋市で立ち上つた幼稚園の方々をおさそいして、昭和二十一年十二月五日戦後初めての会合をしましたが

この会合に参加したのは名古屋市立第一、第二、第三、師範附幼、旭、希望、聖母、柳城、ちくさの九幼稚園にすぎませんでした。

しかし、皆手をとりあつてその再開を喜び幼児教育のために今後一層協力していこうと誓いあつたことでありました。そして、早速十二月二十一日には旭幼稚園を会場として名古屋市保育会を発会しました。この時集つた幼稚園は十四園でありましたが、一同国府谷先生の御心尽しになる、いもぜんざいに舌鼓をうちながら大いに会の将来を祝し幼稚園の発展を祈つたことであります。

昭和二十二年に入つて、一月十八日と六月七日に京都市において関西連合保育大会の準備会が持たれましたが、既に名古屋市においては保育会が結成されておりましたので、何か心強い思いで皆出席いたしました。この頃に名古屋市立第一幼稚園長として渡辺ナホ先生が就任され、希望幼稚園長の大河内四郎先生も御帰還なされました。そして再開の幼稚園もますますふえてまいりました。十月には京都市において戦後第一回の関西連合保育会が開催されましたので一同が参加しました。

一方東京では、倉橋先生や内山先生等の御熱心な御尽力により幼稚園、保育所を含めた全国保育連合会の第一回が開催されましたと

きでありますので、名古屋市保育会からも多数出席しました。

昭和二十三年には名古屋市保育会を改称して名古屋市幼児教育会とし、保護者も会員に加えて幼稚園の振興に寄与していたゞくようにしました。この年に愛知県では初めて幼稚園担当の指導主事ができ、女子師範学校附属幼稚園の久田先生がその担当者となられました。また全国保育連合会の東海ブロックの結成準備会も名古屋市において行われさらに全市の幼稚園児の連合運動会も開催されるなど保育界は漸く活潑な動きを見せ始めました。

なお、白壁町の柳城幼稚園が松原先生の一方ならぬ御骨折りによつて新築落成しましたのもこの年の十一月でありましたが、建築の困難な時期のこの新築には皆大へん励げまされました。

名古屋市幼児教育会は、発会以来会員の研究に修養にひたすら努めてまいりましたが、二十四年には研究部長の渡辺先生を中心に研究に大きな成果をあげました。また東海大会の第一回研究協議会が静岡で開催され、静岡山梨、長野、岐阜の各県とともに愛知県からも参加し、幼稚園保育園関係者が一堂に会して有意義な会を持つことができたのもこの年でありました。

昭和二十五年は私は申すに及ばず名古屋市保育会愛知県保育界にとつても誠に忘れることのできない年でありました。

まず、四月には名古屋市立の栄、吹上、旗屋の三幼稚園が小学校に附設されました。次いで六月十六日には戦後第一の復興ともいうべき第三幼稚園の新園舎（一部ではありますが）の竣工式が行なわれました。当時は新制中学校の新設のため、公立としては全く新築することはできなかつたのでありますが、昭和二十一年以来二つの小学校の教室を借りて困難に困難を重ねて幼児教育に邁進してきた苦労が市当局及び父兄の方々を動かし理事者や父兄に幼児教育の重要性が認められた結果にほかなりません。

これはたんに私の喜びばかりでなく幼児教育のためにも喜ばしいことであると思います。さらに文部省においてもその成果を認められ今後における幼稚園施設の研究の土台とされましたことは幼稚園教育進展のためにも皆様とともに喜ばなければならないと思います。

なお、十月には第四回関西連合保育会研究協議会を名古屋市において開催し、千人に近い会員とともに研究の成果を挙げることができましたことや愛知県私立幼稚園協会が誕生し大河内先生が会長となり、翌年には全国にさきがけて私立幼稚園に対する県費補助を受けるまでに活躍されましたことや愛知県国公立幼稚園長会が誕生し私が会長となりましたことなど思い出の多いことが実に多かつたのであります。さらに関西国公立幼稚園長会に加入し、全国国公立幼稚園長会の結成準備に加わり全国国公立幼稚園長会の創立総会が京都市において行なわれ愛知県からも多数参加したのもこの年でありました。

昭和二十六年に入り、岡山県倉敷市で開催されました第五回関西連合保育会を最後として、永年御指導をいただいた連合保育会から脱退させていただいたことは、最も淋しいことでありましたが、東海ブロックの健全な発達を図るためには止むを得ないことであると思いました。

じかし、一方愛知県国公立幼稚園長会が県費による助成の方法を考えていただくため、昨年に引続いて再三陳情を重ねてきたかいがあつて、二十七年には大体見通しがつくことが確実になりましたことは喜ばしいことであります。

なお、公私立幼稚園の関係、幼稚園・保育

所との関係について一言申しますと、名古屋市幼児教育会は公私立幼稚園の連絡会として必要に応じて協力して研究する機関に（目下協議中）愛知県私立幼稚園協議会と愛知県国公立幼稚園長会とは常に連絡提携し、保育園とのつながりは愛知県保育連合会が連絡会としてあり、何か協議する必要があるときは早速協議会を開いて協議し、互いに協力するという状態で極めてスムースであり、その間に少しのもつれもないことは何よりの誇とするところであります。

保育界の進展にともなつていろ〳〵とその様子も変つて行くこととは思いますが、要は日本の子ども達が幸福で健やかに育つて行くことを念じる私達にとつては、その目的は一つであります。したがつて、私達は互いに協力して力強く幼児教育進展のために、今後も努力する考えであります。

ふりかえつて考えますと、昭和二十一年以来、六年間に名古屋市及び愛知県保育界は戦前にもまして盛んになりました。

これからも、名古屋市及び愛知県の保育会の皆さんの御支援によりまして、人一倍大きい大河内先生と人一倍小さい私との名（迷）？コンビで公私共に協力して公私の進展にさらにさらに努力し名古屋市及び愛知県の保育界をいよいよ発展させるように努力したいと思つております。

さらにつけ加えておきますことは、昭和二十七年四月には市立幼稚園はさらに二園を増設し、加うるに第一、第二、第三の三独立幼稚園は市の理解ある御援助により同時に新増改築が行われ八月までには何れも落成の運びにまでまいつておりますことであります。これは、幼児教育の必要性を理事者も一般社会の人々も、さらに認めてきた証拠でありまして、本当に喜ばしいことであります。

愛知県保育連合会
- 愛知県国公立幼稚園長会
- 愛知県私立幼稚園協会
- 愛知県保育施設団体協会

名古屋市幼児教育会
- 名古屋市立幼稚園の会
- 名古屋市私立幼稚園協会

名古屋市保育協会

青いヴェール

松村康平

おさわりございませんか。

幼稚園での講習会も、今日で終わりました。幼稚園の先生がた、小使さんやおばさんまで、幼稚園側のご苦労はさることながら、予定の人数をはるかに上廻わる先生がたが、方々から集まられての熱心な勉強、この春まで実習生だつたほやほや・ピチピチ先生から、老いてなお日々に新らしく前進の大先生が、一堂に会されて、私も自然、はりきつて、講義案をつくり暑いなかにも、楽しい日を過ごすことができましたが。

私の担当が、講習会のおわり五日間で、今日までありましたので、「先生たちは（私も含めて）、これから、夏休みをどのように過ごすべきか」といつた問題にもふれる責任を感じ、「映画の観賞」を奨励してきたところでございます。推せんいたしました映画は「青いヴエール」。

私自身が、映画をみるまえに、筋を読んだり、ひとから感想をきくことを、あまりしないので。それには、「新鮮さ」の失われるのをさける気持があつてですけれど。それで、今日も、内容にはくわしくふれませんでしたが。

純白な、その人の幸福を包むヴエールとひとの子の「いのち」を祝福する青いヴエール。そのどちらを選ぶようになつたか。

この映画では、それを、育児婦として生きてきた一人の女性が教えてくれる。

以前に、「塵に咲く花」という映画をみましたが、その映画では、保育所でのように子どもたちの世話をする女性の一生が、えがかれています。幾人もの子どもたちを扱う女性。主役が、グリア・ガースンだつたからでもありましようが、理知的なひらめきが強く、子どもの世話をする面と、事業を運営する手腕にもたけた女性の姿が、みられました。これにくらべると、「青いヴエール」では、ひとりびとりの子どもに附きそい、やがてはその子から手をひくときがきて、去つていく育児婦の姿がえがかれてこまやかな情愛の動きに、しつとりとした落着きが感じられる。私は、黒板に、鋭角的なプロフィールと、まるみのある幼児の横顔をかいて、二ツの映画から受ける感じを伝えようと試みました。

あのような育児婦は、二人か三人の子ども、多くても十人をこえるかこえない少数の子どもの世話しか、一生の間に、することができない。けれど、そうした生活の中にも生き甲斐を感じる人であつてこそ、多くの子どもたちの保育にも優れた保母であることが、できるのではないでしようか。

先生だつたらば、この映画のどこを、取りあげられるだろうか。どのような観方をされるだろうかと、考えました。

講習を終わつて、「青いヴエール」をみる先生がたが、どれだけあるでしようか。その感想をきけたらと思いますが、脇役のあのおもちや屋の主人が、どのようなかたちでとらえられるかも、知りたいと思いました。

☆ ☆ ☆ ☆

青いヴェール

倉橋惣三

この間はおそうそうでした。

其時のお話によつて、早速観てきました。タイトル自身がヴェールに包まれているが確にそういう感じのする筋ですね。澄んだ月夜の空といつた具合で、奥深さというよりも奥広さ（？）といつた気味合ですね。

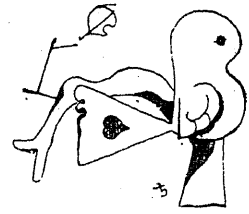
それが筋からくることは素よりですが、主役のルイスを演じるジェーンウアイマンの妙技によるものでしよう。私にはアメリカ女優を論ずる資格なんかないし、殊に此の人は前に「子鹿物語」で一度観たことがあるだけですが、今ではハリウッドで一流どこなんですつてね。とにかく此の役には嵌り役で、母性映画をこうもスラリとやつているところは『感心を押しつけない名優』ともいえましようか。これが普通のお涙頂戴でヤラレたら、少くも私のような年輩のものは、倦かされて仕舞いますよ。私が大抵の映画、殊に評判のいゝアメリカ映画に、そう魅せられないのは、表出があり過ぎて芸がないところにあります。

この映画のどこの広告だかに、『我子への愛は人間のこと、他人の子への愛は神のこと』とかいつた文句がありましたが、ほんとうに真実な、従つて謙虚な育児婦ルイスにとつては、それも実は修飾語に過ぎないでしよう。

さて、育児婦というのは、職業としては西洋にあるナースのことでしよう。私はイギリスやアメリカの家庭でそういう人達を幾たりも見ましたが、実は余り深くも気にとめませんでした。我国古来の『子守り』とは全然異つて居ることには、いろ〱考えさせられましたが、幼稚園や保育所の先生のように、特に乳幼児保育者としての社会的尊敬は払いませんでした。勿論業務といつても、全く私的なもので公的なものではないのですから、先生方と一列に並べるべきではないでしようが、乳児幼児に心を献げる愛育の仕事という点では、もつと注意すべきだつたと、此の映画を見ながら思いました。ひとりの預り子に全心を集注する此の人にこそ、子供を保育するもの、真の愛情が小さい葉の上に結ぶ露のように、却つて清いこともあるかも知れません。このジェーン、ワイマンの芝居のない目や脣の動きの中にそれを見せられた訳でした。

育児婦という人には、いろ〱の動機があり必ずしも『保育精神』からというのでもありますまい。現に此の映画では、ルイスが戦争で夫を喪つた孤独者であり、同時に、産院の隣りのベットで、赤ン坊とその母達の喜びを眺めながら、我子の死産を医師に告げられる初めのシーンが、相当念入りに描写されています。こゝでのワイマンの、シグサのない芸当は見落せませんね。

それから幾つもの場面がかわつて、四つの家庭の育児婦として、次々にひとの子の世話をしその間、美貌と誠実によつて、度々求婚せられながら、いつもそれを辞している心の運び、終に育児婦に適しない老境になり小学校の掃除婦になつて伽いている、あの淋しい、しかし悔のない後姿。今はそれ〲家庭をなしている昔の子供らの打ち揃つてのパーテーに招かれるラストシーン。第一のシーンの涙の浄化としてよくきいていますね。



十月の保育

幼稚園……堀合文子
保育所……鈴木とく

十月の幼稚園

堀合文子

主題	年少組	年長組
	○運動会 皆と共に集団行動をする自覚と協力性をやしなう スポーツ精神という事も年少ながら一応はしらせたい 皆のしているのをみるという興味と態度をやしなう 十月に入つて練習するのでなく、もう九月からゆうぎ等は練習しているのであるから前から楽しみにしている。いろ〳〵話合つてその日の来るのを楽しみにしたり約束したりする	○運動会 大体年少組と同じ 年長組になれば競技精神も高揚して来るからその点こちらも正しく導く要がある。いたずらに競走心をおこさせぬように負けた時は相手の勝をよろこぶとの美しい精神をやしないたい。 ○八百や 近くの八百やを見学にいく 野菜果物の名前をあげたりして話合い、仕事

お話

○動物園

皆と一緒に動物園を見学にゆかれゝばよいが動物の名をあげたり、話合つて興味をおこさせこんなものをつくろう等と相談してつくる動物の絵等飾つて環境をとゝのえるのもよい

○うさ吉のお母さんの病気

○柿の実のすきなお猿さん

○象さんのギツコンバツタン

○森のお友達

○石のうす、

○紙芝居

別に題材をのせないから園にある適当のものを選び二、三回宛として入れておく

○人形芝居（さるとかに）

の分担もあらかじめきめておいてもよい。秋の野菜果物をしらせ、共同製作の興味と協力をやしなう。

○熊と子供達

○いたずら兎

○ふしぎな金の鈴

○黒のお客様

○お話合い（うんどうかい）

運動会が近くなつたら運動会について種々と皆の考えをきいたり皆と約束すべき事を話合つて、その時の話題により手技で用意するもの（例えば応えんの旗等）は作つたりして年長組ではスポーツに対する興味や心がけをしらせたい。

○紙芝居（三つ）

○人形芝居（舌切雀）

○無花果

よく植えてある家庭があるから葉の形、実の形つき方、熟すると食べられる等観察する。八つ手の葉と比較させてみるのもおもしろい。

○栗

出来ればいがの中に入つたものをみせたいが中味だけでも子供達が食べたりしてしたしんがいるものであるから、まわりの堅い皮、しぶ皮等よくみせたい。

○どんぐり

木のあるところへ皆で拾いにいつて、おはじきにしたり、ごまにしたり人形さんをつくつたりして遊ぶ。遊んでいる中に帽子の事だの種々の形がある等をしらせる

○菊

かおりたかい菊の花、花びらの沢山ある事等年少ではあつさりと観察させておく。

○芋掘り

芋掘りが実際出来ればよいが土の中のお芋の様子、つるにつながつている

○野菜

主題の八百やさんの誘導としても八百やさんに皆でお野菜、秋の果物をみにいつたりして野菜の種類名前等話合つてこの季節には特に野菜果物の豊富な事を話しておく。

○赤とんぼ

秋の半ばになると赤とんぼがとび出す。体の美しい色、他のとんぼとちがう所などよく観察させる

○栗

年少組の時の要領と同じだが年長組ではいがの中の栗、木についた栗等写生にとり入れ、観察と共に美しい秋の感觸も味あわせたい

○どんぐり

どんぐり拾いにいつて、種類等観察すると同時に、並べて数えたり、並べて模様をつくつたり種々と工夫して遊ばせる。

○菊

部屋の花を写生したり、大輪だの小菊だのある事をしらせ葉の形だの他の花とちがう点も

		有様など経験しながら観察させたいものである 園の畑にうえてある時は一緒に芋掘りして楽しみ後で少しでもふかして食べたりすると一更楽しみもふえる
音樂リズム	○運動会（運動会のために） ○日の丸（〃　　） ○きら〳〵星（〃　　） ○お芋掘り（リズム遊び） くわをかついで入物をもつてお芋を掘りにいく。掘る所、掘つたのを持つて帰る等生活をリズムに併せて、動作を自由にさせてみる ○まつぼつくり（唱遊）	
絵畫製作	○動物つくり 主題の動物園の動物をつくる。	

		比較させる 皇室の御紋章という事も一言しらせる ○芋掘り 年少組の要領と同じ
	○運動会 ○日の丸 ○きら〳〵星 ○お芋掘り（リズム遊び） 年少組と同じだがこちらの自由表現の要求は年少よりもつと以上のものを希望する ○どんぐりころ〳〵（唱遊） 唱も遊戯もおるがそれを教えると共に、自由にどんぐりにならせるのもおもしろい。 木からどんぐりが落ちてくる。 ころ〳〵ころがりどんぐりがあそぶ、そこへ子供がひろいにくる。という風にリズム遊びにしてもおもしろく遊べる。	
	○運動会の旗つくり 赤と白の応えんの旗をつくる	

年少だから、画用紙でつくつたり箱で簡単につくる程度でよい。
なるべく一種類は手本のようにその動物を印刷したりしてやつてもよいが後は自分達の工夫した動物がおもしろい。なるべく仕事を分担して一種類が沢山出来てしまわぬように各自始めの相談の時に決めて作るのがよい。
一度に沢山つくらなくてよいがゆつくりと興味を持続させつゝつくらせる。

○動物の象や柵をつくる

動物が出来たら動物の象や柵をつくるが、これも細い仕事になりがちであるからこの年少児に出来る範囲の簡単なもの。柵はあら目にするだのとその点むずかしくならぬように特に注意が必要である。

○動物園の切符つくり

動物園を公開するのに切符をつくる
動物の模様をつけたりした子供らしいものがよい。

○お絵かき（自由に）

○えのぐのお絵かき（自由）

紙と棒とを与えて自由につくらせる
部屋の装飾として万国旗式のものをつくつてもよい。
万国の旗をみせてかゝせてもよいがいろ〳〵子供らしいお花の絵があつてもかえつてよいのではないでしようか

○八百やさんの野菜、果物つくり

つくるものを相談して、又年長だからどうしてつくつたらという事も一応相談してみる
中味を紙屑やパツキングを入れてふくらみをもたせ、外側にそれ〴〵野菜、果物の皮をうくつてはりつければよい。
なるべく立体的なものがのぞましいから一つだけ一緒につくればあとは子供に色々考え、工夫させて作らせる方がよい。
出来れば実物の御手本をみてつくらせるのがよい。

○八百やさんのねだん書

これも相談していくらかきめて、すみでねだんをかゝせる。

○八百やさんのお店のかざり

のれんとか、看板も共同の製作としてつくる

○十月のお絵かき
（毎月一度かいた絵をとつておく）

○お絵かき自由に
○えのぐのお絵かき（自由）
○お絵かき（運動会の絵）
運動会をおえてその時の様子をかゝせてみる
○写生
どんぐり、きくの花
○模様かき、どんぐりをならべて
模様をかく。
はじめ実物を紙の上に並べてみていろ〳〵形を考えそれからかゝせる方がよい。

健康の習慣

○十月の身長体重測定
○朝晩涼しくなるからあつくなつたらさむくなつたらと自分で調節するように
○なるべくこのよい気候に戸外で遊ぶように

○十月の身長体重測定
○朝晩の衣服の調節（年少組と同じ）
○戸外でよく遊ぶ

よき習慣

○運動会の時のように皆と一緒に行動する時はきびんに行動し人に迷惑にならぬようにする
○共同のものは大切にする

○大体年少組と同じ
○友達に親切にしけんか等せぬようにする
○食事の時、途中で用たしにゆかぬように、はじめにいつておく

行事	○口にものを入れたまゝ話さない	
○運動会 ○十月のお誕生会		○年少に同じ

十月は気候もよい。夏休みの家庭生活のくずれも取れてこれから十一月にかけて、一番よい時期である。しかし同時に行事も種々とあるから、その機その機を利用して、よき習慣をつける事が大切である。九月の案にも記した様に、これはカリキュラムでなく、先生としての予定案に過ぎぬのであるから、その環境や子供の状態において適当に変化するゆうずう性が必要である。出来上つたカリキュラムとしてははるかに不足があるのでその点混同せぬ様に、御参考になれば幸です。

十月の保育所

鈴木とく

実りと収穫の時、十月は自然礼讃と健康増進の月とされるのが日本のしきたりの様です。農家は何かと取りいれに忙しく、都会人は、秋の自然を満喫して、体を鍛えようと蒼穹を仰ぎ、熟れた木の実を賞玩します。

幼児の生活も亦、之等周囲の環境に、興味を覚えて、都会地では遠足、運動会の喜びを待ち、農山村地域は、栗拾い、茸狩等、野山をわがものと駈けまはる事でしよう。

保育所全体の計画は、きつと、遠足や運動会の事で、ぎつしりと立案されること、思います。

保育所での幼児の生活も、そろ〳〵実の入る頃です。生活年令も半年過ぎ、集団生活の場も、自分の処としての安定感も得られ、何か、自主的に行動したい気分が、自ら出て来る時期とも思はれます。

楽しく、野山に遊び、遠足をし、運動会をする事が、自然社会の観察となり、共同の目的にむかつて力をあはせ、奉仕する事で、喜びを感じながら、社会的生活習慣を養う、よいチャンスであると思います。

生活指導の面から、

三才児（年少組、もう四才になつた方が多いでしよう）は、色々な個人的習慣が、他から云はれないで、自分で気がついて行く様に四月からとりあげて来たものを、もう一度、この月位からあと半年の間、訓練して行きたいと思います。

どの年令の幼児にも、食慾増進から、実りへの感謝も含めて、食事は、よくかんで、粗末にしない様に頂く事を習慣づけましよう。一緒に食事をとりながら、保母も、ゆつくりよく嚙むことです。

○道を歩く時の注意
○乗物の中での態度、注意
○きめられた範囲で行動する事を守る
○目的地での食後や、遊びの後の紙屑、その他の始末
○笛がなつたら何をしていてもすぐ集るとかの、或特定の場合の命令服従
○年少児を親切にたすける
○年長児の云う事をきく
○リーダー性を発揮させる
○皆で相談して事をきめる習慣をつけ、皆できめた事は、自分はいやでも之を守る
○進んでお手伝いをする習慣（先生に、或は家で。—三才児、四才児を対象）
○年少組のお当番を、計画的にはじめる。

等は、この月に考えられ、又培いやすい生活習慣かと思います。之等の事は、園外保育の時、遠足の時、或は運動会の準備の間中に、行はれる事です。

道を、大勢で上手に歩くのはなかなか大変な事です。後をふりむいて話しながら歩いたり、立どまつて見ていたり。先頭の保母と、最後につく保母の、呼吸が合はなければなりません。駈け出して間をつめるところんで怪我のもとですから「さつさと歩くと追いつけます」と云つて下さい。さつさと歩く練習は、三、四才の歩行の基礎的練習を太鼓等のリズムで、しつかりとつけておくと、楽です。

園外保育地や、遠足地等には必ず、危険地があります。「こゝからこゝまでの間で遊びましよう」と安全地帯を示して、そのきめに従うこと。「だめよ」「いけないのよ」と禁止すると、好奇心と冒険心と反抗心とでなほさら、行きたがつたり、してみたがつたりするでしよう。

団体行動や、集団生活では、命令に絶対服従する習慣もつけておかなければ、安全が失はれたり、他に迷惑をかけて共同生活が不快になることがあります。けれども、生活のあれもこれも絶対命令に従はせると云うのではありません。

近くの園外保育に出かける時は、なるべく、年長、年少共同で、行き、手をつながしてお互の交渉の中に、年少者には親切に、年長者の云うことはきく様に、と云う気持を助長させましよう。

運動会の準備等も、互に話し合つて、色々な事を決めてゆく様にすると、自主的に仕事をはこぶ習慣がついて来ます。自分勝手に好きな様にきめたり、いつもく、保母が決めた通りにばかりしているのでは、我まゝになるし、受身な形になつてしまいます。之は、年長児では出来ることです。小さな六人位のグループをつくつて、

順々に、リーダーをさせ、自分達の生活（あそびも、日常生活も含みます）の事を相談させる様にして、よく決つた事は、保母も、それを尊重する様にする事です。

保育所の生活がすつかり身についてくると小さい人達は、保母を手伝いたがります。うるさいし、手間取る時もありますが、この奉仕の精神の芽生えを育てましよう。体力の無理のない様に、掃く事ふく事、運ぶ事、その他色々とやつてあげようとすることを、して貰いましよう。手伝うことの喜びを、どの子も感じられる様にしてあげたいと思います。三才児など、お当番が出来るでしようか？食事の時の準備は、大体出来ますから、順番に当番することにしたりどの事と、どの事とをするか決めたりして、責任をもつて、当番をしおえる様に、しましよう。余り数多くの事をしてもらつては駄目です。

健康保育の面から

いやでも、外遊びが多くなる計画の月です。狭い保育室で、何となくざわめいて居るより、庭に、近所の小公園や、社や、寺の境内に、或は野原に、出ましよう。

半裸の遊びを、まだ止めたくありません。寒さにむかうまで皮膚を鍛えましよう。要注意児への細心の心づかいと、午前、午後の休憩と昼寝は前月と同じに、幼児の為に、お考え下さい。

食慾のすゝむ時に、食べ過ぎてお腹をこわさない様に、躾の面で申し上げた、よく噛んで食べる習慣を健康の面からも徹底させて頂き度いと思います。

年長児はこの頃から　自分の大便について、保母に連絡するくせをつけたいと思います。それから、朝食、夕食について、床についた時間、起きた時間等について、母親の手を惑はさず連絡帳に自分でつけることをさせて見て下さい。

日		どんな便	朝にした	
1		○	△	
2				
3		○	○	
4				
5				
6				
7				
8				

大便（朝すると決めて）
朝した時は○
よい便　○
やわらかい△
下痢　×

日		同じ	多い	少い
1	朝	○		
	夕		◎	
2	朝			△
	夕			△
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				

食事
いつもと同じ　○
いつもより沢山　◎
いつもより少し　△

等の様にして、食事、排泄、睡眠等に自分で興味をもつ様にして行

きたいと思います。

年少、乳児等は、お母さんが、もすこし、こうした事に無頓着でなくする為にも、毎日符号で、吾が子の状態を連絡する様に、しむけると、保母が、その子の健康状態を知る上からも、亦、母親の保健指導の上からも、よい事だと思います。

十月末に、肌寒さを少し感ずると、直ぐ、長ズボンをはかせたり長袖のセーターをきせたり、くるんでしまう事を考えるお母さんが多い様です、保母が、もすこし、保健の知識をはつきりと身につけて、厚着させようとするお母さんの心配をやわらげて薄着安心の方向へむけましよう。之はなか〳〵難しい事ですが、保母も、遊ぶ事や教える事に夢中になつても、一々の幼児の衣服の調節に注意をむけるのを忘れ勝ちです。

遊びの實施の面から、

園外保育や遠足が単元として取上げられたとして、之を実施する迄に、何かと準備されなければなりません。近い所への園外保育は遠足迄の地ならしともなります。二人づゝ手をつないで、上手に歩くこと、道を横断すること等、上手になりましよう。

ホールや、お庭で、交通遊びを展開させてもいゝでしよう。交通整理や、電車にのることなど、ごつこ遊びとして続けられるでしよう。何処の幼児達も、「お手々つないで」は大好きです。歌つてあげて、或は弾いてあげて、歩かせましよう。「お日様ニコ〳〵日本晴」の遠足の歌や、お散歩の歌等、よろこんで歩きます。

先に、この計画そのものが、自然、社会観察だと言いましたが、何も、一つ一つ、発見して上げたり、注意をむけさせたり、説明してあげたりが幼児の観察ではないと思います。見たものにふれ、つかまえた物で遊び、感じた事を言葉で云い表す事がよいと思います。自分から注意し、発見し、疑問をもつ様にしむけてあげましよう。

採集や、話合いや、童話に発展して行く事もありましよう。

遠足地は、年少組にも適する所、一日の行程が、幼児に無理でない所を撰びましよう。大人の楽しみ本位でなく、あくまで、四、五才児本位の遠足であるべきです。

遠足の連絡をするお手紙を入れる封筒は、製作にもなります。自由に、色々な型の封筒が出来上り、嬉しい便りを入れて自分から運ぶことでしよう。

生活指導の面であげました、車内での公衆道徳は、幼児と共に、母親への躾でもあり、吾先に、吾が子のみ、の自分本位な愛情の型を、なんとか他の為にと考える様な機会ともなりたいものです。目的地での、食べた後、遊んだ後、屑物をちらかしたまゝにしない等もそうです。

遠足がすんだ後は、又一しきり、変つた経験をしたあとの話合いがあり、乗物の話や歌、秋の野山でみたもの、もみぢや、栗や、小鳥等の歌になつたり、絵を描いたり、乗物の製作（空箱、マッチ箱利用、木工）になつたり、粘土細工にあらはれたりするでしよう。

この時に、なるべく、遠足の時の絵を描きましよう、とか、見たものを拵えましようとか、こちらから要求する形はやめたいと思います。或、幼児にとつては、その時の印象が、ずつと後になつてあらはれる時もあるからです、要求された事で、それを表現出来ない

為に、不安を感じ、自信をなくす事があります。体験した事、感じた事を、表現する様、或刺戟を与える事は必要と思いますが、じかに自然にふれ、自然を観、感じる事、それを多くして、体に、心に溢れるものを待ちたい様に思います。

仕事の都合で、母が一緒に行けなかつた幼児のこゝろは、そつとつゝんでおいてあげたいし、当日はなほ一層の保母の愛情と心づかいを傾けるべきでしよう。

× × × ×

「赤かつように、白かつように」と、町の村の、小学校のお兄さんお姉さんの運動会の話や練習に刺戟されて、マラソンごつこや、かけつこ、リレーレース等、この月に見られる遊びであり、又保育所でも、母と子の運動会等計画されましよう。

「赤帽白帽かけつこだ」の歌は、元気よく続きます。

この運動会は、秋に身心を鍛える為に行はれると思いますが、種々な計画が、幼児自身からおきた興味であり、要求であると云いながら、保母の興味や趣向が、鑑の様にはりこんで、幼児のそれとわからぬ中に入り乱れて、幼児の精神的過食、過労に気づかずに、保母の伎倆のみせ所と、張り切つてしまつた感じをうけることがあります。

もつと素朴なものにしたいと思います。年長組が中心となりますが、運動会にどんなことをしたいか、何と何がいるか、何をする人が要るか等、ありつたけの経験をしぼり出して皆で話し合うでしよう。

プログラムの構成には保母の意見が十分に入つて整理される必要がありましようが、する事は、之迄の遊びを競走化したり、歌と踊りや、やさしいフォークダンス等を主とし、来賓や、保護者に見せる為の運動会でなく、幼児の力と、努力と、協力で、自分達がなしとげた喜びを、大人が共に喜んであげるものでありたいと思います。

運動会の為の種々な製作があります。どんなに不出来でも、幼児にとつては得意です。花や月や、山や縞柄の万国期が出来上るかもしれません。それはそれとして、世界の国々の旗に対する興味も湧いて来て、模写しようとする意慾まで行くかもしれません。

一等、二等、三等の旗も、紅白や色とりどりの応援旗も皆夫々の年令で分担出来ましよう。塗りつぶしの好きな年少児は、絵の具でベタ〳〵塗りつぶす旗を、懸命につくるでしよう。鈴割りの中に入れる。色紙の小さな切りこみは、乱切りの好きな年少幼児に、或は精薄に近い問題児の作業に、時々の製作の屑折紙を大切にしまつておいたものを利用させましよう。

呼出し、ならべ方、テープ持ち、道具揃え等、夫々の仕事を分担して、保母が、その助手となつて、幼児の湧き出す力の方向を、円滑に、目的や方法に添うよう、梶をとつてあげましよう。

立派に整えられた運動会にはならず、運動会ごつこで終るかもしれません。けれど、幼児の力相応でするとと云う事に重きをおいて、考えて行きたいと思います。

これは、日々の保育で、自力、自主を重んずる生活指導が、保母の周到な心づかいのもとになされていれば、出来ない事ではありません。

家庭への連絡と、母の會の行事への參加

遠足、その他で、経済的無理をしない事。他の人の持物を真似して、ねだるまゝに、無理をして買い与える事がない様に。

服装がとゝのえられないからと、親のみで、子供の楽しみを中絶させない様に。一緒に参加出来なければ、大丈夫、保母が面倒みますからと、安心させてあげる事が大切です。食料、持ち物等、どの幼児にも差がつかぬ様、こちらで、最低の物を指示しましょう。

下着、その他、常に清潔で、とゝのつておれば、そのまゝで、さつぱりと美しい感じをうけるものである事を、事の度に、母親へ、伝えましよう。

無用の厚着を、この頃からさせない様に。

組織された母の会を、どんな形で幼児の行事に参加させたらいゝでしようか。物品の寄附や、お金ではなく、母親も共に子供達と楽しむと云う、優しい心やりから出発したいものと思います。紅白玉入れの玉をつくつたり、補つたり、は夜分でも集つて出来ます。

幼児の力では余る部分を、母親同志の奉仕で補う様にして、当日は、外に仂いているお母さんも参加出来る様な日を、えらびましよう。仰々しい道具不要の、競技を、お母さん達で考えておいて、プログラムに入れてもらいましよう。

× × × ×

十月の季節や自然は、幼児に想像や、冒険を、勤労や奉仕や努力の歓びを、そして創造する力を与えるべく用意しています。

この天の賜を、享受すべく、保母も技巧にとらはれない自由人でありましよう。

(51頁から) 託児的保育に止めるべきではなく、寧ろ家庭教育と母の愛の行屆かざる彼等こそ、よき教師によつて、よき教育が与えられなければならないと思う。十年前に多く行われていたデイ・ナーセリ(Day Nursery)が、全米を通じて、今日の進歩発展を観たもので、実に注目すべき現象である。私の参観した一施設の収容児数は三十五名で、教師は六名と養護教師一名であつた。一教師受持の幼児数は、二才児六名、三才児八名、四才児十名と十二名で、即ち六つのグループに分れていた。

三、の加大のナーセリ・スクールを観るに大学附属という特種の施設関係から、高度の理想教育を目標に於いて他のナーセリ・スクールに見ることの出来ない経費が、両親の負担となつている。私は時間割のみを記述したが、何れこの内容を後日に報告したいと思つている。

☆ ☆ ☆

現今に於けるアメリカのナーセリ・スクールは、斯の如く進歩し発展しつつある。教師は殆んど大学出身の教育課程を卒えた専門家であり、私が視察した感想の結論は、結局、わが国として幼児教育の重要性に対する再認識が政府当局、社会、家庭、それらの人々と共に、現職教師にあるということである。幼児教育をして国家の礎石たらしめるならば、即ちこの積極的推進力を持つことが必要である。

アメリカ童話から 19

松原至大

湖へ行つた子うさぎ

子うさぎが、いなくなりました。

お母さんうさぎが、おでかけの時に、子うさぎを、お家の入口のところに待たせて、「ここで待つていらつしやいよ。おいしいクローヴアを、とつてきてあげますから。」といいました。そして大急ぎで、おでかけになつたのでした。

子うさぎは、その時、日光の中にすわつていました。ほかほかとして、うれしいのでした。いつもお母さんが、耳を動かしているのを、見ていたので、自分もブルツ、ブルツと、両方の耳を動かしていました。

そこへ、一ぴきの黒い蜂が飛んできました。

「おはよう、蜂さん。どちらへ?」と子うさぎが聞きました。

「湖へ行くところですよ。野いちごが、花ざかりですよ。この冬のに、蜜をとつとかなければなりませんから。」と、黒い蜂は答えました。

「いちごの蜜なんかなめてどうするの?」子うさぎが、小さな鼻をピクピク動かしながらたずねました。

「食べるのですよ。」こういつて、蜂はブーンブーン、と音をたてました。ふとつたお腹を、前足の一つでこすつたり、目をグルグルまわしたりしながら。やがて蜂は、とんで行きました。

一羽の駒鳥がきました。

「おはよう、駒鳥さん。どちらへ？」と、子うさぎが聞きました。

「湖へ行くんですよ。あそこには、ふとつたおいしい虫がいますからね。」と、駒鳥が答えました。

「虫をどうするの？」と、子うさぎがたずねました。

「食べるんですよ。」と、駒鳥がいいました。一本足で立つて、頭をヒョイヒョイさげながら。やがて飛んで行きました。

一ぴきのねずみ色をした栗鼠がきました。

「おはよう、栗鼠さん。どちらへ？」と、子うさぎが聞きました。

「湖へ行くんです。そこの大きな木にのぼつて、今度どこに実が落ちるのか見るんですよ。」と、栗鼠が答えました。

「木の実を、どうするの？」子うさぎは、いつしよに行きたいなと思いながら、こうたずねました。

「中の実を食べるんですよ。」栗鼠は丈夫そうな白い歯を見せながら、こう答えました。やがて走つて行きました。

一ぴきの茶色の亀がきました。

「おはよう、亀さん。どちらへ？」と、子うさぎが聞きました。

「湖へ行くんです。今日は日が照つて、暑いでしよう。だから水の中にはいつてみたいのですよ。」と、亀は答えました。

「水の中にはいつて、なにをするの？」と子うさぎがたずねました。

「泳ぐのですよ。」と、亀はいつてから、できるだけ甲羅の外に、頭と足と尾をつき出して、ゆつくり歩いて行き

ました。

亀が行つてしまうと、子うさぎは、お母さんにいわれたとおりお家の入口のところにすわりました。そばに、はえていたまるい、いくつかの白いデージーが、子うさぎを見て、にこにこしました。子うさぎはあいさつをすると四ひきのお客さまが消えて行つた方を見送つてうなづきました。小さな一つの羽根のような雲が、太陽の上を通りました。そしてそれは、湖をさして急ぐかのように、空を急いで行きました。

子うさぎは、あたりを見まわしました。お母さんの姿は、まだ見えません。

「ぼく、お腹がすいちやつた。ぼくも、湖へ行こうつと。きつといちごの蜜や虫や、木の実があるよ。それからぼくも泳げるんだ。」と、子うさぎはいいました。

子うさぎは、丘をおりて行きました。まるい白いデージーは、頭を振つていました。

高い羊歯のはえてるところにきました。子うさぎよりも、ずつと高いのです。子うさぎは、そのそばに立ちどまつて、とんがつた耳を動かしながら、羊歯をながめました。やがてやわらかな小さい鼻を、その中につつこみました。羊歯は、子うさぎの通れるほどの道を作つてくれました。

間もなく子うさぎは、ひろびろとしたところに出ました。太陽が輝いて、あたりの空気が、よい香りをしていました。

そこへさつきの黒い蜂が、とんできました。

「おや、君もきましたね。ぼくが蜜を集めるのをたすけて下さいよ。君にも、いくらかあげますよ。ぼくのするように、花の中に頭をつつこむんですよ。」と、蜂がいいました。

でも、子うさぎは、まだまだ小さかつたのですが、その頭は、蜂の頭よりも、ずつとずつと大きくて、ひらつたい鼻は、蜜のある花の奥までは、とてもとどかないのでした。

とうとう蜂は、がまんができなくなつて、
「どうしたのだね、いうことをきかない。」こういつて、飛んで行つてしまいました。一なめの蜜もおかないで。
子うさぎは、また丘をおりて行きました。さつきの駒鳥に出会いました。
「おや、君もきましたね。さあ、虫をつかまえてあげましよう。」と、駒鳥がいいました。
駒鳥は、どこかへ飛んで行つたかと思うと、じきにもどつてきました。まるまるとした一ぴきの虫を、くちばしにくわえて。それを、子うさぎの前におきました。
「おたべ。」と、駒鳥がいいました。
子うさぎは、虫をながめました。
「だめ。ぼくには食べられない。まだ生きてるんだもの。」と、子うさぎがいいました。
「どうしたのだね、いうことをきかない。」こういつて、駒鳥は飛んで行きました。
子うさぎは、また丘を降つて行きました。さつきの栗鼠に出会いました。
「おや、君もきましたね。ぼくについて、この木にのぼりなさいよ。実のなるところを教えてあげるから。」こういつて、栗鼠は木の皮に、鋭いつめをかけて、幹をかけのぼりました。
子うさぎは、あとから続こうとしましたが、やわらかな足の裏がいたくて、登ることができません。そこへ栗鼠がおりてきました。
「さあ、去年の実を、一つ見つけてきましたよ、かみ割つてごらん。」と、栗鼠がいいました。けれどもかわいそうに、子うさぎの小さな歯では、その実のかたい殻を、かみ割ることはできませんでした。
「どうしたのだね、いうことをきかない。」とうとう栗鼠も、こうどなりました。そしてその実をとりもどして、木の上に登つて行きました。

あわれな子うさぎは、また丘を降つて行きました。涼しい風が流れてきました。静かに水のはね返える音が聞こえてきました。ちようど子うさぎの顔の前で、緑の草がとまつていて、その先には、なんだか大きくて、ピカピカ光つた青いものがひろがつていました。

そこへ、さつきの亀があらわれました。

「おや、君もきましたね。さあ、いつしよに湖へ泳ぎに行きましよう。」こういつて、亀は草の中をすべつて行きました。

子うさぎが、足を一つ出すと、ズツズツとその青の中にはいつて行くのでした。

「はいりなさい。」亀が呼びました。

「ぼく、そこは歩けません。草じやないんですもの。」こういつて、子うさぎは、耳を頭にぴつたりとつけて、湖の岸のところにしやがんでしまいました。

「どうしたのだね。いうことをきかない。」こういつて、亀は泳いで行つてしまいました。

子うさぎは、湖の岸にすわりました。

「ぼく、迷い子になつちやつた。」子うさぎは、思わず泣きたくなりました。「こんなところまで、丘をおりてきちやつた。もう、この先は歩けない。ぼく、蜜も食べられなけれや、虫も食べられない。木の実もかめないし、亀さんのように、泳げもしない。どうしたらいいんだろう?」

小さな鼻が、ピクピク動いて、まるい涙が、目の中にたまりました。

その時、だれか来るのに気がつきました。

「まあ、こんなところに。」それは、お母さんの声でした。ああ、子うさぎの喜びようといつたら。

「お母さんは、あなたにお家の入口のところで待つているようにつて、いいませんでしたか?」と、お母さんは

いいました。

「ええ、でもぼく、お腹がすいちやつて、蜂さんと駒鳥さんと栗鼠さんと亀さんが、来るようにつて、いつてくれたものだから。」と、子うさぎはいつて、まだ先を続けました。

「けどだれも、ぼくにクローヴアをちつともくれないし、お家へ帰る道も教えてくれなかつたんですよ。」

子うさぎの鼻には、涙が流れていました。

「泣くものではありませんよ。お母さんがクローヴアを上げます。もつと大きくなるまでは、ひとりで外へでかけてはいけませんつて、お母さんがいつもいうでしよう。」と、お母さんうさぎがいいました。

「うん、ぼく、湖の上なんか歩けやしない。ぼくたち、どうしてお家へ帰れるの?」子うさぎは、泣きじやくりをしていました。

「あなたは湖の上を歩いてきたんじやありませんよ。丘をまつすぐにおりてきたのです。だから私たち、これから丘をのぼつて行けばよいのです。」と、お母さんは笑いました。

「ああ、そうか。」と、子うさぎは、ほつとしました。そこで、お母さんうさぎと子うさぎは、ピョンピョンはねながら、丘を登つて行きました。道々、まるくて白いデージーが、二匹におじぎをしていました。子うさぎは、お家へ帰るのが、とてもうれしかつたのです。(ルース・アーノルド・ニケル女史の作による)

樂しい
幼稚園の給食

鹿野京子

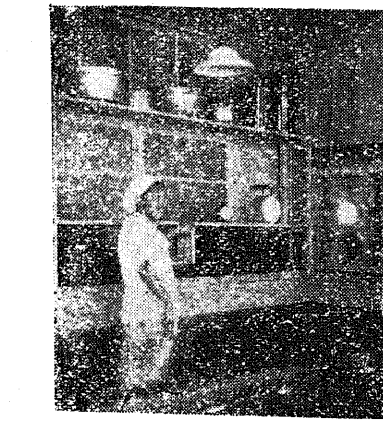
愚外は雪模様の寒々とした日ざしでしたが室内はストーヴが程よく燃え、頬を上気させた子供達は、今しも余念なくスプーンを口に運んで居りました、突然ガラリと入口の戸が開いて半身乗入れたのは、今日給食当番の此の組の児の母親の一人でした。稍ためらいがちに先生の方に一礼してから、今度はせかせかと吾子の傍に歩みよると、素早く皿の上に目を走らせ「まあ、〇〇ちやん、あんた、此の午蒡みんな食べられたの、うちでは今迄一度も食べたことがなかつたのに――」吾子の顔と先生の方を半々に眺めながら、さも感に堪えた様に「やつぱり幼稚園の午蒡は美味しいのねえ」食事の時きまつて真先に元気よく「御馳走様」を云う〇〇ちやんは、恥かし相に、しかし得意気に頬をあからめてニコリとしました。

『果物卵以外は野菜お魚肉類殆ど何も頂かず困り切つて居ります。別に悪い所もなく大した病気も致しませんのに一向肥りません』入園の際の家庭調査にその様に報告されているNさんは、小柄で顔色も冴えず、元気一杯な他の男の児達の遊びの仲間には入らず、何時もボンヤリ眺めて居る様な児でした。今日は新入園児にとつてはじめての給食の日、色彩りも美しく見るからに食欲をそゝる妙め御飯のお皿を前に「頂きます」の挨拶も待ち切れずいち速くスプーンを取上げて一口頬張る子供、お皿の上に瞳が吸いよせられた様に動かぬ子供、やがて嬉々としたざめきの中に食事が始まりました。その中にNさんもまたゆつくりく一口宛スプーンを口へ運んで居ます。細かくきざまれては居ますが、彼の大嫌いな筈の人蔘、玉葱、ハム――気づかはしげな先生の瞳が「しつかりく」と無言のまゝ励まして居ます。最後の一粒をも残さず食べ終えたNさんは、先生に頭を撫でられながら晴々と微笑みました。これは食糧事情が好転したので、幼稚園の完全給食を再開した頃のある日の所見です。

「お早うございます」の挨拶の口の下から「先生今日もお給食あるね」と朝毎に必ず念を押す子供達。帰宅しては「幼稚園と同じカレーライスつくつて頂戴」と母親にせがむ子供達――、もとより幼稚園の魅力のすべてが給食ではありませんが、とに角一番楽しいことの一つに数えられる給食です。

元来、学校給食は、貧困による欠食児童救済のための社会事会に端を発し、それが更に虚弱児を対象にその健康増進を目的とする様

になり、やがて全児童の体位向上、健康確保を目指して行はれる様になりました、殊に戦時及び終戦後の困難な食糧事情の下に於ては其の意味で大きな役割を果して来たのであります。しかし食糧事情の好転しつゝある今日に於ては更に給食を通じての正しい食生活の理解を目的とする健康教育として行はれる迄に発展致しました。



幼稚園に於ても、その教育的な観点からも万難を排しても給食の実現が望まれるのでありますが、然し之を完全に行うには、充分な施設（特に衛生上）と相当の人員（就中適当な担任者）を必要とする関係上、早急にはなか〳〵実現不可能な場合が多い現状の様です。

幸い、本園に於きましては可成り早くから完全給食を実施、好成績を挙げて居りますので御紹介かたゞく拙い文字を綴りました。

本園に於ける給食の歴史は、昭和十四年に遡ります。

何分にも幼少の児を対象として行う給食ですから、種々な点に一方ならぬ苦心がありました。殊に衛生方面には、人や施設や物やあらゆる面に厳しい注意が払われました、若し園児が胃腸障害を惹起したと致します。すると一応給食に疑念を向けがちになるのも親心として無理からぬことでありましよう。実際栄養の点からは如何に完全な食物であつても衛生上些かなりと申分があれば、折角の栄養食も何の役に立たぬ許りか、その為に生命を危くする結果ともなる怖れがあります。

幸いにも本園に於ては、母の会の熱心な協力と支持の下に、給食担当者に常に人を得、今日迄たゞ一回の事故もなく予期以上の好成績を収めつゝありましたが、戦時下米穀の統制強化に及び止むを得ず一時中絶致しました戦後は暫時栄養としてスープ、味噌汁等の給与を行つて居りましたが、食糧、燃料等諸般の事情の好転に伴い、一昨年（昭和廿五年）十一月より再び週五回の完全給食を開始致し今日に至つて居ります。

本園給食の実際に就て簡単に申述べましよう。

先づ設備に就ては

昭和十四年設置以来、度々拡張、改善を行いました。

衛生上特に清潔維持に細心の注意を払つて居ります。例えば、採光、換気が完全に行はれるために窓は広くとり、防蠅のために金網が張つてあります。

其の他、材料搬入、調理、配膳、食器返還等の際の手数軽減と混雑防止に留意し、すべての作業が一貫して清潔にしかも整然と行れる様、流し、調理台、炊飯器、ガスコンロ配膳台、配膳車、食器戸棚等の配置が考慮されて居ります。

食器は病気の伝染を防ぐため洗浄には特に注意し使用の都度煮沸消毒を行い翌日直ちに便用出来る様準備致します。

組織は現在

栄養士2名（中1名は給食主任）
雑士婦1名
事務1名　の他に

毎日母の会員3名宛が当番として手伝います。之は申す迄もなく給食の実際に母親の直接参加を求めることによつて団体給食の経験と、幼児食の献立、調理方法の実習、教育参観等を通じて、家庭に於ける食生活改善をも意図して居ります。子供達も、今日は僕の私の、また祖のお母様の御馳走と大よろこび致します。

6月2日～6日　　1週献立表

曜日	献立	蛋白質 g	脂肪 g	熱量 ca
月	御飯 豆きんとん ほうれん草ピーナツ和元	16.4	3.8	553
火	白魚御飯 みつ豆 沢庵	8.5	1.4	457
水	御飯 揚だんご，そら豆 沢庵	12.9	11.9	597
木	木の葉御飯 キャラメル 沢庵	7.7	12.1	503
金	白ぼろ御飯 白玉だんご 沢庵	15.0	4.5	5.5

費用と　しましては

園児1名に就いて月四百円（材料費、燃料費人件費を含む）を徴収します。

○主食は米食とし年少児（3、4才児）一日当り7勺　　年長児（5才児）同8勺を週5日分まとめて家庭より持参させます。

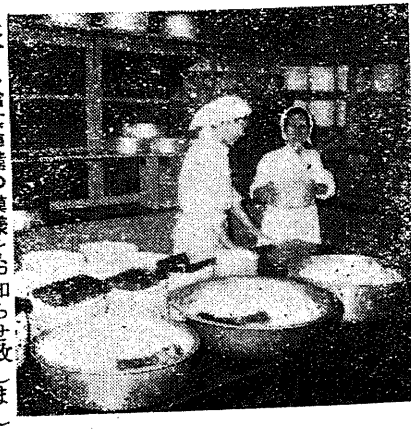
献立は

給食主任及び栄養士により前週にその作製を行い、当番の会員3名宛を配当し、『給食通信』として週一回園児の家庭に配布致します此処で献立作製の方針や、調理上の苦心等に就いて一言申述べます。

熱量は一食大体五百カロリーを標準と致しますが、発育期の幼児の特質を考慮して、カロリーのみに重きをおかず、蛋白質の補給、無機塩類、ヴイタミンの配合に留意します。

殊に調理に当つては、すべての子供達、わけても偏食癖の子供にも喜んで食べさせるために、栄養価値を損ぜぬ限り、美味しくしかも見る眼に美しくと非常な苦心が払はれて居ります。例えば、人蔘、玉葱などその栄養上の価値にも拘らず子供の嫌いな代表的野菜ですが、細かく刻み、分量や調味に手加減を加え見るからに食欲を唆る「三色ずし」や「炒飯」にすれば子供達は知らず〳〵よろこんで頂きます。りんごの一片も兎の形に、夏みかんの一袋が蝶になつてお皿を訪れ或る日は密豆が色彩り美しく、給食ならではの楽しみです。其の上、食事が進むにつれ、皿の模様の愛敬者の熊さんが、おなじみのきりんや象やさては可愛らしいお人形が現はれるのですから何とうれしいことでしょう。

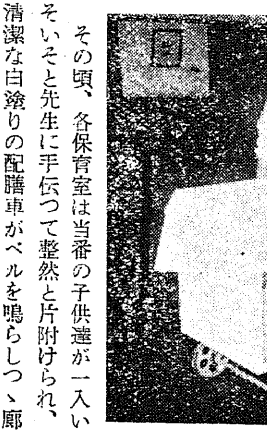
しかも、夏にも腐敗、中毒の心配がなく冬はまたあたゝかに湯気のたつ食事を摂ることが出来るのです。



序でに給食準備の模様をお知らせ致しましよう。午前九時、先づ炊飯器のガスに点火さ

れます。専任の給食係はもとよりその日の当番の母の会員も甲斐〳〵しく服装を整えて、我家の台所で鍛えられた腕前が発揮される訳です。十時頃には各組別に正確な出席人員が報告されます。

十一時を少し過ぎる頃に、日々凡そ二百五十—七十名分の食事が調い、いよ〳〵配膳にかゝります。



その頃、各保育室は当番の子供達が一入いそいそと先生に手伝つて整然と片附けられ、清潔な白塗りの配膳車がベルを鳴らしつゝ廊下を進んで来るのを待受けて居ます。

ランチ皿に御飯を型で抜く人、副食を盛り合はせる人、盛付けを了えた皿を運ぶ人と淀みのない流れ作業が行はれて、その間凡そ一時間で七室の配膳を完了致します。

いよ〳〵待遠しかつた食事が始められるのです、眼を閉ぢて静かに待つ子供達の真剣な顔々。

最後に

本園の給食に於きましても、決して現状に満足して居ります訳ではありません。日々反省し、常に工夫を計り、不備を改善しつゝ、よりよきものにと努力致して居ります。

食事も時折、園庭や遊戯室に於て全園児の会食を楽しむ以外、平素に各組別の保育室を使用致しますが、将来には理想的な大食堂の設置を考えて居ります。（感応幼稚園教論）

（15頁より）

健康記録、生育史、家庭状況、校外生活の影響。そして家族中に弟妹が生れたこと、悪い家庭、病歴及び栄養失調歴、子供が学校で良い成積をあげるよう親から強制されること、家庭における無訓練、訓練過剰、ラジオの恐ろしい話及びその他の多くの条件は、子供の心の平和或はそれを欠くことに影響を与えている。家庭と学校間の良い協力関係がどうしても必要である。なぜならば前者或は後者が幼児の不適応或は非行の基礎的原因にならないようにである。

◇　◇　◇

どんな幼稚園が良い幼稚園であるかについて、種々述べてきたので、読者は、幼稚園の教育が単に子供を半日間保護すること以上のものであることを、十分理解し得たであろう。幼稚園の教師は、大きな責任をもつている。教師が子供と協力する結果如何によつて、子供は幼稚園が好きにも嫌いにもなる。さらに教師の同情的な指導が行われる場合とそれを欠く場合とを考えて見ると、子供の学校生活は、前者においては、良く順応した熱心な幼児として、後者においては、スタートから障害を受けた、くぢけた、失敗した幼児として進んでいくのである。また教師の舵のとり方一つが、子供の学校生活に対する親の永続的関心或は無関心に刺激を与える。教師の影響は、全く多種多様である。教師は特定の事実に対する教師であるよりも、むしろ幼児のガイドであり、指導者なのである。

（完）

☆　☆　☆　☆

アメリカ通信

—2—

津守　眞

○センスの相違

どこに行つてもすぐ尋ねられることは、「食事も違い。住居も違つて慣れなくて不便でしよう」ということである。いかにもその通りである「日本ではどういうものを食べて、どういう所で寝るのですか」と聞かれる。

『すしというものがある。刺身という世にも美味しいものがある。たゝみという黄金をしきつめたような部屋に、柔かいふとんをしいて寝る。

全く風俗習慣は異なるけれど、全然ちがつた意味で風流なすばらしい生活ですよ』と答へる。皆感心して、一度そういう違つた文化の国に行つてみたいと云う。「是非いらつしやい。大歓迎しますよ。」と云うものの、一寸考える「一体この人達がきて、私達の生活と、私達の生活のセンスを理解して貰えるだろうか」と。

日本の生活のセンスは、いはゞ貧乏な生活の中に、いかにして喜びと、楽しみとを見出そうか、という所から生れてきたものと云えるのではなかろうか。四畳半の部屋に、半紙一枚の墨絵をはりつけ、お線香を焚きながら、蚊のブン〳〵鳴くのを聞き乍ら、よれ〳〵の古い書物を紐とくのも、私達の感覚から云えば、誠に風流なものである。汚ない釣竿を肩にして魚のにおいのしみこんだびくをぶら下げて、地下足袋をはいて、てく〳〵と日照りの中を歩いて魚釣りに行くのも太公望にとつては、こよない味わいであろう。一週に一日の休日を、日あたりのよい縁側に腰を下して、碁に興じるのも風流であろうし、又、物置のような大学の地下室で、今にもショートしそうな電気こんろで乾燥芋をかじり乍ら清読をするのも或る意味では風流であろう。数へあげればきりがなく風流はある。しかしこの風流が、釣りと云えば、百哩もハイウエイを自動車ですつとばして、屋根にのせて運んできたモーターボートを湖に浮かべて、きら〳〵光る金具の釣竿を下し、大学の研究室といえば、電話管と統計器と、いくつものスイッチをひねつてすぐに、コーヒーが飲めるようになつて居り、普通の労働者なら必ず、一週に二日の休日と、年に最少三週間の、連続有給休暇があつて、南に北に旅行もするという人達に解つてもらへるかしらと疑問に思う。

日本料理というものも、貧乏と関係があるのではないだろうかと思う。刺身を作るのに機械はいらない。一本の出刃包丁と、なまのよい魚があれば美味しい刺身が作れ

るだろう。刺身も腕前によつて、うまさが違うと云う。しかしその腕を作るのには機械はいらない。ともかく浜でとれたこの魚をすぐ料理して食へたら、それだけで、すばらしくうまいだろうにな、と想像して、よだれを流している。所がこの刺身が、アメリカで食うとさつぱりうまくない。日本人の家庭で、新らしく日本から来たお客さんだから、刺身をごちそうしようということになつた。それで冷蔵庫からこちくに凍つた鮪のひとかゝへもあるような塊を出してきて、私が一番最近にきたから刺身が作れるだろうということになつて、一ダースもある包丁の中から、出刃に近いのを選んで、刺身をこしらへたが、いざ食べる段になつたら、さつぱりうまくなかつた。腕の相違もあるのかも知れないが。

（アメリカの子供にキンダーブツクを見せている津守先生）

アメリカ人の集りで、日本の料理を紹介してくれと云われた。それで、すきやきをすることになつた。さてレシピーは？と聞かれて困つた。すきやきにレシピーがあるなどと聞いたこともなかつた。たゞ肉と、ねぎをごつたごたに入れて、七輪で煮ながら、まわり中から箸をつゝこめば、我々にはそれがすばらしくうまいのである。しかし皆でかこむ福沢山のこんろもないし、仕方がないから、台所で、いろくの香料をめちやくちやにまぜ合せて醤油をこしらへもつともらしく時間を計り乍ら、ごたくく煮て、皿に盛つて食堂に運んで、パンと一緒にホークで食べたら、さつぱりうまくなかつた。環境というのは恐ろしいもので一つの要素だけとり出してきても、さつぱりピンとこないのである。

私達日本人の楽しみというのは、どうも

すべてこの類のものゝように思はれる。もう少し例を挙げてみよう。

ピクニックという言葉がある。もう日本語になつてしまつているが、英語にもピクニックという言葉はある。アメリカ人は実に、ピクニックが好きなので、一緒にいつてみないかと夏になると何回も誘われる。

私もピクニックは大好きだから「僕も大好きだ、喜んで行きましよう。」と云う。さて、ピクニックと云えば、水筒を持つて、にぎりめしをこしらへて、朝早くからいそ〳〵として郊外電車にゆられて、一日山の中や畠の中を歩き廻つて、皆で土の上に新聞紙をひろげて、にぎりめしをほゝばつて夕方暗くなる頃、くた〳〵になつて帰つてくるのが日本のピクニックである。こゝでは違う。行こうというと、忽ち冷蔵庫からソーセーヂを出し、パンをとり出しコカコラと毛布とコーヒーもポットのまゝ、それにスプーン、ホーク、ナイフと思いつくものを片端から自動車に放り込んで二〇哩か三〇哩かすつとばす。路のわきの野原や森の中に簡単な机と椅子が所々にこしらへてある。そこに毛布をしいて、食事をして二時間もすればもう家に帰つているのである。何だか余り自動車が発達しすぎて、歩く楽しみがなくなつてしまつたようで、かへつてつまらない。

こういう例は数へ上げればきりがない。日常の生活すべてがそうである。

しかし、ともかくも日本人というグループと、アメリカ人というグループに、こういうセンスの相違のあることは事実である。心理学、社会学、人類学で、文化の相違ということを問題にする。確にアメリカと日本という二つをとつてみても、地理的にいつても、それ〴〵離れて、日本は一つの島を、アメリカは一つの大陸を作つているように、文化も又、それ〴〵の事情に応じて違つた形を作つている。

日本の国は貧乏なりに、その中で楽しめるような新しい文化を作りたいものだと思う。たゞ余り、貧乏になりすぎることゝ、生活が楽しめないような条件におかれることは、大いに困るのであるが。

○学問研究について

人類学の講座の中に「日本民族と日本文化」というのがあつた。どういうことをとやべるのか聞いてみようという気を起して一日ばかり、毎週三時間づつ、大人しくきいた。そして疑問をおこした。こゝで語られているものが私達の民族と文化なのだろうか、と。凡そ私達の感じる日本文化とは違つたもののように思われるのである。

例えば、平安朝と云い、紫式部と書けば私達に一つの香りを与えてくれる。これが、Heianchoとなり、Murasaki-Shikibuとなると、味も香もなくなつてしまう。すべて此の調子である。そして他の学生は一生けんめい宿題の本を読んで、リポート書きに追はれている。そしてこうして三ケ月を経れば、日本文化と民族のことについて単位を取つたことになるのである。

私は、そこで反省してみた。一体私達子供の研究に携わるものも、これと同じあやまちを犯しているのではなかろうか、と。

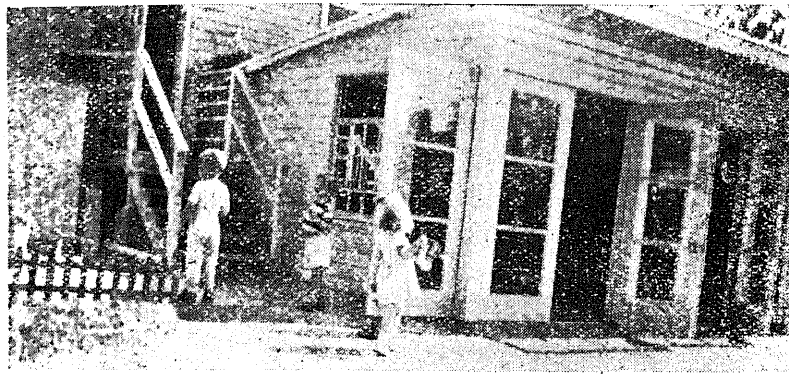
無論、前に述べたような知識も、ないよりかいゝのかも知れない。しかし時に、かへつて、その知識が邪まをして、日本の理解を歪めてしまうことも、多分に考えられる。子供の研究もその通りで、よほど注意深くし、謙虚にならないととんだ事になる。

アメリカの幼児教育視察報告

☆　☆　☆

特にナーセリースクールについて

安間公観



私は昨年の九月下旬日本を立つて渡米、本年二月の下旬帰国した。目的は幼稚園教育の視察調査ではあつたが、現今著しい進歩を示しつつあるナーセリスクールに対し、深い興味をもつてこれらを、見学した。その理由は、幼稚園教育のみを見て、今日のアメリカに於ける、幼児教育を語ることは出来ないし、また、わが国の幼稚園の現状からしても、このナーセリスクールの視察が、殊更必要であることを痛感させられたからである。

幼稚園教育の諸問題に関しては、次の機会に報告をするつもりであるが、ナーセリスクールと幼稚園との相違を知つて頂くために、その概況を述べると、アメリカの幼稚園は、大体就学前一カ年である。そして、義務教育的に行われているところもかなりある。殆んど学校に附設されているから、従つて学校との教育的関係は密接であり、理想的である。勿論クラスルームも、学校の教室と隣接していて、一組の幼児数は二十五名乃至三十名である。広さは三十坪内外、新らしい幼稚園になると五十坪もあるかと思われる豪華なのもある。

一小学校に於ける幼稚園の室数は、大部分二つであつて、特別の事情のない限り、定員外の収容はしないから、午前と午後の二部教育が行われている。園長と云うものも居ないしまた別に主事とかという名称をもつものもない。ただ学校長あるのみで、職員名簿を見ても、各学年受持教師と共に、幼稚園教師は、比較的上席に置かれていて、年令は二十五才位

から、六十才程度の婦人である。

これら幼稚園の実情を観ると、最早アメリカに於ては、わが国のように、幼稚園の独立的存在は認められない。即ち小学校教育の一部分であり、基礎教育上、重要視されていることは、疑いのない事実である。

☆　☆

扨て、ナーセリ・スクール（Nersery School）の調査報告をするに当つて予め御了解願い度いことは、かの広大な大陸のことであるから、一を見てそれが総てであるとは考えられないし、各州によつてその管理・監督が行われているようであり、また、カルホニアの如き、比較的財源の豊かな州にあつては、北部南部その他の州とは違つて教育施設のみを見ても、実に恵まれた発展を示していると同時に、各地の必要性に順じた措置が講じられているわけである。

アメリカのナーセリ・スクールは、国家の教育系統に編入され、政府の教育局にはNursery Kindergarten Primary Education & Specialistとして、デイヴス博士が、それを担当している。故にこの三者は教育上分離することの出来ない、密接な関係におかれている。

ナーセリ・スクールは、各地の実情によつて異るも、大体イギリスの創設者、オウエン、マクミラン両女史のそれを取入れた進歩的なものと、加州大学附設の如き高級的に類するものと、デイ・ナーセリ（Day Nursery）から発達したものとが、現今、行われている。

ようである。なかにもデイ・ナーセリよりのものは、十年前から最近に至るまでの普及と進歩はまことに驚くほかはない。私はこれによつて如何にアメリカの幼児達が、階級的の差別なく、恵まれた教育環境にあるかということを知つた。

私は二十数カ所のナーセリスクールを視察した。そのうち三つの異るものの概要を報告して御参考に供することとする。

（一）加州バークレイ市
Parent Nursery School

ペアレント・ナーセリスクールは、バークレイ成人教育の一部分であつて、幼児のための教育体験と、両親のそれらに対する実習に提供されている。幼児を観察しまた自ら実習に参劃して学ぶことは両親のためと同時に、低年令幼児の教育上、必要であることは云うまでもない。従つてこの場で学ぶ母親は、自己のためやその他、何事も幼児に対する独自的の行動は許されない。幼児はお互の接触によつて、大いなる成長をもたらすものであり、母親も幼児を指導する体験を通じて、幼児と共に伸びてゆく――また母親は、幼児の成育振りを観たり、その年令のレベルに適切な指導法を学ぶ機会を得てそれら総ての智識と技能は、母親自身の行為行動の中に、試験されるもので

ある。斯くの如き尊い体験の多くは家庭に於てつねに、実行に移すことが出来る。

母親達は週に一回、夜会合を用いて教師から講義を聞き、種々な討論を行い。日常の生活の中に幼児を如何に教育的ヘルプするかを習得するこの会合には、父親の出席を歓迎するまたあるグループでは、月に一回専門家と共に、特別の集会を開く。

ペアレントナーセリスクールに於ては、両親と幼児を左の目標によつて教育する。

A、両親のために

1、幼児の行動を導く、よりよき方法を学ぶ

2、幼児の全般的躾に関する識見を高める。

3、成長の跡を認め、その発達を助長する方法を学ぶ

4、理解と熟練に対する自信を高める

5、時折り面倒なことに直面した場合消極的感情を捨てて出来るだけ寛容な態度で、幼児と共に喜びと満足をもつて事をなし得るよう導く

6、ナーセリ・スクールの技術を実習し、また学校や家庭に於て各々の幼児の必要に応じ、会合の方法を学ぶ機会を与える

7、幼児独自の創作的実験探究を助長せしめるために、母親が如何に指導するかを教える

8、母親相互の協力によつて、ある一つのグループで、事業をすることを学ぶ

9、備品や教材を建設的に、そして創作的に使用する方向に、幼児を導くことを指示する

10、幼児の成長の段階に関係ある行動を、如何に保護するかを説明する

11、善良なグループに生活すると云う、相互関係を理解せしめる

12、幼児をより深く理解し得ることの出来得るようにする

B、幼児のために

1、友達と共に遊ぶ機会を与える

2、物を分配することや秩序を学ぶことを援ける。

3、家庭の外で、大人からうける援助や指導によつて、永久に拡大されて行く環境の中で、安心を覚えることを教える

4、種々の機会に、自分の環境を観察したり、また多くの家庭で与えられるものよりも、より広い範囲の変化に富んだ教材で、探究することを教える

5、自立と自力に対する奨励

6、身体の安全と健康のことについて教える

7、自分自身または、グループの友達に対して、害になる行為をせぬよう教える

8、食事、睡眠、排泄に関係のある、良い姿勢と習慣を培うことを教える

9、成長発達を培い、興味を増大する行動を与える。

ナーセリ・スクールの時間割

（午前組）

八・四五—九・〇〇　健康調査

九・〇〇—一〇・〇〇　屋外遊びの監督（天候による）

一〇・〇〇—一〇・一〇　遊具の整頓、用便、手洗い

一〇・一〇—一〇・三〇　柑橘類の果物を与える。年少児には休養年長児には談話

一〇・三〇—一一・二〇　創作的遊び、各少数グループに分れて人形の部屋、積木の部屋、机で静かな遊び、フィンガー・ペイント、砂箱遊び

一一・二〇—一一・三〇　整頓の注告

一一・三〇—一一・五〇　用便、手洗い、全幼児の休養

一一・五〇—両親の迎えがあるまで、各児は休養から起きて、机で静かに遊ぶ

（午後組）

一・三五—二・五〇　健康調査、母親の吾児に対する戸棚と用便の監督

二・五〇—三・五〇　興味を示した年長児グループのために特別に計画された遊びの監督（三・五〇の時刻の終る五分前に遊具を整頓することを注告する）

三・五〇—四・〇〇　玩具と備品を整頓する、（これに対して先生からうける手援けは極めて少ない）

四・〇〇—四・三〇　絵本の選択、少数のグループで談話、中間給食、音楽

四・三〇—終了（両親の迎えをうけて帰宅）

（二）加州サンタモニカ市 Nersery School Child Care Center（児童相談所）の施設事業であつて勤労階級中、低収入の家庭を対象にしている。Child Care Center は、州の教育局の監督をうけており、その財源は州よりのものが 62.77%で両親によつて支払われるものが 37.23%である。

Child Care Center（四カ所）の業務要項は次の通りである

一、母親が仂いている家庭の幼児（学童保護施設も含む）一八〇名を収容する。

一、そのうち57%は学令児で、69.8%は片親だけのものである。

一、そのうちまた、43%は二才から四才と一才半で46.4%は片親だけのものである。

一、一五四の家庭が登録されている

一、その家庭の58%は片親だけのもので、そのうち50%は、月収二〇〇ドル、またはそれ以下である。

一、四カ所の Care Center 中、二カ所は一日十一時間半として、週に五日間開所する。

一、一カ年に三〇七日開所し、毎週日曜日と国の祭日のみ休業する。

ナーセリ・スクールの時間割

七・〇〇　幼児が登園すると健康調査、両親に簡単な相談、食事まで静かな遊び、

七・三〇　朝食、養護教師による身体検査、休養前の用便

八・〇〇　休養または睡眠（八時前に登園の幼児）八時以後登園の幼児調査と用便の習慣、屋外遊びの監督——枠登り、車付の玩具、大形積木、ボール、砂場遊び—等

九・四〇　朝の間食、果汁、肝油

一〇・〇〇　年令別グループによる指導、創作的教材、イーゼルペイント、フインガー・ペイント、粘土、自然観察、屋外散歩、談話、音楽、絵本等

一一・一五　昼食の準備、用便と手洗、休養

一一・四五　昼食

一二・三〇　午睡の仕度、手洗、仮寝の着替え

一・〇〇　全幼児の午睡

三・〇〇　起床、着替え、用便、ミルクの給与

三・三〇　屋外と屋内の自由遊び（年令別グループ）の監督

四・三〇　用便、静かな遊び——談話、音楽室内玩具、帰宅前の整頓

五・三〇　終了

（三）州立加州大学附属ナーセリスクール

A組、八・三〇—一一・三〇

月謝60ドル

B組、八・三〇—二、四五

月謝100ドル（昼食共）

幼児数、各組一五（男八・女七）

時間割（B組）

八・三〇—九・〇〇　養護教師による全幼児の健康調査

九・〇〇—九、四五　屋内または屋外に於ける自由遊び

九・四五—一〇・一五　休養（一五名半数交替）果汁の給与

一〇・三〇—一一・一五　自由遊びの継続

一一・一五—一一・四五　昼食の準備

一一・四五—一二・一五　昼食

一二・三〇—二・四五　睡眠（起床後帰宅前果物とトマト汁を与える）

☆　☆　☆

一、のパークレイ市、ペアレント・ナーセリ・スクールを観るに、両親教育をして、幼児教育の完璧を期することは、先ずもつて理想的施設の一つであろう。また指導教師の優秀さが如何に重要性をもつものであるか、われわれのふかく学ぶべき点ではなかろうか。

二、のサンタモニカ、ナーセリ・スクールに於いては、幼児をして単なる

（33頁へ）

朝の散歩　夕の散歩

倉橋生

散歩だから、きまつた目あてはないが、朝の散歩には、とき〳〵、生みたて卵を買いに、養鶏所に立寄らされることがある。

その養鶏所の前の道路を隔てた空地に、当節の十二坪（？）式の小住宅がある。

垣のない小家の中は外から殆んどまるみえで、大した調度品もない簡単な家庭らしいが、芝生の小庭には、藤棚の下に砂場があり、ブランコがあり、その他いろ〳〵の運動遊具が散らばつている。そのうえ、縁側には室内用スベリ台まで見える。ピアノやオルガンは見えないが、男の子のらしい晴やかな唱歌の声が屢々聞える。彼はいつもその小家の前に立ち止まつて、子ボンノウな若い両親の顔を想像する。丁度そのま向いに朝の富士が笑つているのである。

夕方の散歩は、妻君のお伴をすることも多い。商業街の赤や青のネオンサインの光が、書斎の目に賑やかだ。その一端に、懇意の八百屋がある。彼女がその夫君のために、季節々々のはつものを探しに立寄る行きつけの店である。そこの若いおかみさんと彼女とは、いつも店さきで立話をする。

その間、彼は店頭の色彩を眺めながら、おとなしく季節の俳句をヒネりながら待つているのが慣例である。

ところが、ことしの初めその家庭に赤ン坊が生れたから、その立話の時間が長くなつた。そうして、その若いおかみさんの、離乳の話、睡眠の話、運動設備の話、すべて、忙しいあきないの間の育児苦心談に感心しては、それが帰り途、歩き〳〵、報告される。それがまた、翌朝に持ち越され、八百屋の若いおかみさんの、科学的母性の感嘆と、そのまる〳〵日立つている赤ン坊のための祝福とで家中賑わう。その間、彼れおぢいちやんは、三人の孫達の顔を見わたしながら、にや〳〵笑つているのが慣例である。但し養鶏所の前の小家の向うの富士山のように高く君臨している訳ではない。

秋の保育應答研究会

一、九月二十日。十月十八日。十一月十五日。十二月二十日（いづれも第三土曜日）（午後一時半）

一、会場。フレーベル館講堂。

来会随意。会費不要。

一、講師。倉橋惣三先生

フレーベル館内
保育応答研究会係

幼児の教育　第五一巻　第十号
定　價　金五拾円
昭和二十七年十月二十日発行
東京都中野区千光前町一〇
編集兼発行者　倉橋惣三
東京都文京区大塚町三十五
お茶の水女子大学附属幼稚園内
発行所　日本幼稚園協会
東京都板橋区志村町五番地
印刷所　凸版印刷株式会社
東京都千代田区神田神保町二ノ四
発売所　株式会社　フレーベル館
振替東京一九六四〇番
○本誌御購読について注文申込その他はすべて発売所フレーベル館宛に願います。

最新刊

増子とし先生編著

保育のための 音樂カリキュラム

上・下巻（近日発売）

B5上製 各巻共一四四頁 定価 一、二巻共四〇〇円

従来、歌とおどりとが、別々のものとして取扱われる傾きがありましたが、本書は両者の密接不離のつながりに重きをおいて、有機的立体的結合を主眼として、カリキュラムを組んであります。すなわち、一つの教材において運動のリズム、音樂のリズムその他を多角的に取扱つている点に本書の特色があります。

保育音樂リズムの権威たる、著者、増子とし先生の声望は夙に定評あるところで御座います。先生半生の苦心の成果がこの二巻に圧縮されていると申すも過言では御座いません。

新遊具

トロッコ（特種木車使用）定価 一、八〇〇円

屋内遊びにも、屋外運動にも、努力遊具として適切な新案。特徴、前車輪方向回転式

わなげ（輪入り）

新型(大)A16号 五色輪五つ 定価六五〇円
新型(小)A14号 六色輪六つ 定価三〇〇円

台はつなぎ組立式、輪はあたらしくできた内蕊鋼鉄線つなぎ輪

發行所 東京都千代田区神田神保町二ノ四 株式会社 フレーベル館

厚生省児童局編

待望の **保育指針** 出づ!!

A5型 153頁 定価 130円 送料 30円

（お申込は振替又は小為替利用が便利です）

保育するということは安易なようで，なかなかむづかしい。こん度保育所のみならず，他の児童福祉施設における保育の為に保育計画の立て方保育児童の問題など，児童福祉施設一般にわたる保育の専門事項を取り纒め，こゝに「保育指針」として上梓するとになつた。本書の活用如何はかかつて保育に携る者の手腕と技術にまつべきであろうと思う。

厚生省児童局長 高田正巳 序

【内容の一部】

保育の目標と原理…吉見 静江
生活の環境と調整…高島 巍
身体の機能の発達…斎藤 文雄
精神の発達…牛島 義友
生活指導…堀 要
遊びの指導…竹田 俊雄
能力の育成…副島 ハマ
道徳の育成…キユツクリツヒ
保育計画と自発性…副島 ハマ
保育計画とは何か…珠川 善子
1—2才幼児の保育…鈴木 とく
乳児院に於ける保育…星野 きく代
看護施設に於ける保育…高島 巍
保育の実際問題…堀 要

東京都千代田区神田司町一の一 財団法人 日本児童協會 振替東京一九五三二九番

11月号予告

観察 **キンダーブック** 繪本

KINDER-BOOK

第7集 【マザーグース】 第8編

☆お子さま方の感情と知識の成育のために古く広く好評の高い本☆

A4判・16頁・月一回発行
解説付
定価 45円・送料 8円

『マザーグース』

これらの子供唄は、マザーグース（お母さん鵞鳥）が歌つてくれたものということになつています。母鵞鳥はどんないい声で歌つたかと思いますが、その後世界中の子供達は大喜びで、銘々好きな節をつけて歌い覚えました。

今年はキンダーブック創刊二十五周年に当ります。その四分の一世紀記念として、何かふだんとは違つた趣向をという祝心で、この世界的な子供の唄の本が撰ばれました。

発行所 東京都千代田区神田神保町二丁目四番地 株式会社 フレーベル館 振替口座東京一九六四〇番